

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

自己評価報告書

2023年6月12日現在

福岡デザイン&テクノロジー専門学校

2023年6月12日作成

目 次

本書の使い方	1	基準4 学修成果	25
1 学校の理念、教育目標	2	4-13 就職率	26
2 本年度の重点目標と達成計画	3	4-14 資格・免許の取得率	27
3 評価項目別取組状況	4	4-15 卒業生の社会的評価	28
基準1 教育理念・目的・育成人材像	5	基準5 学生支援	29
1-1 理念・目的・育成人材像	6	5-16 就職等進路	30
基準2 学校運営	8	5-17 中途退学への対応	31
2-2 運営方針	9	5-18 学生相談	32
2-3 事業計画	10	5-19 学生生活	34
2-4 運営組織	11	5-20 保護者との連携	36
2-5 人事・給与制度	13	5-21 卒業生・社会人	37
2-6 意思決定システム	14	基準6 教育環境	39
2-7 情報システム	15	6-22 施設・設備等	40
基準3 教育活動	16	6-23 学外実習、インターンシップ等	41
3-8 目標の設定	17	6-24 防災・安全管理	42
3-9 教育方法・評価等	18	基準7 学生の募集と受入れ	44
3-10 成績評価・単位認定等	21	7-25 学生募集活動	45
3-11 資格・免許取得の指導体制	22	7-26 入学選考	47
3-12 教員・教員組織	23	7-27 学納金	49

基準 8 財 務	5 0
8-28 財務基盤.....	5 1
8-29 予算・収支計画.....	5 3
8-30 監査.....	5 4
8-31 財務情報の公開.....	5 5
基準 9 法令等の遵守	5 6
9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....	5 7
9-33 個人情報保護.....	5 8
9-34 学校評価.....	5 9
9-35 教育情報の公開.....	6 1
基準 10 社会貢献・地域貢献	6 2
10-36 社会貢献・地域貢献.....	6 3
10-37 ボランティア活動.....	6 5
4 2022 年度重点目標達成についての自己評価	6 6

本書の使い方

- 1 本書は平成 25 年 3 月、文部科学省が策定・公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）に示された「項目別の自己評価表(例)イメージ」及び「自己評価における評価指標・観点・参考資料一覧表(イメージ案)」などを参考に全体を構成しました。
また、評価項目は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構(以下「機構」という。)がガイドラインに準拠して制定した「専門学校等評価基準書 Ver4.0」を適用しています。
- 2 従来の「評価項目別取組状況」に「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」を加えることにより、ガイドラインに示されている PDCA を活用した自己評価を進めることができるようになっています。
- 3 ガイドラインでは、「項目別の自己評価表(例)イメージ」において取組状況を 1 から 4 の評語を用いて自己評定する様式を例示しています。このことから、本書でも「評価項目別取組状況」の小項目毎に評定欄を加えました。評語の考え方の例は、以下のとおりです。但し、評定については学校ごとの考え方により実施しない学校においては評定欄を削除してお使いください。

※評語の意味

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

- 4 本書は、学校関係者評価を円滑に進めるために、記述のうち「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」など部分的にピックアップして評価を行うことができるように構成していますので、学校関係者評価実施においても活用できます。
- 5 本書はワード形式で作成しています。学校の考え方により適宜変更して使用してください。ご不明な点につきましては、機構事務局までお問い合わせください。

連絡先 03-3373-2914 info@hyouka.or.jp

1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
<p>本校は、滋慶学園グループに属しており、「職業人教育を通して、社会に貢献する」という学園グループのミッション（使命）のもとで、教育理念を明確に定めている。</p> <p>教育の理念は滋慶学園グループ全てで共有しており、「建学の理念」として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実学教育（業界に直結した即戦力となる知識・技術を教授） ・人間教育（プロの職業人としての身構え・気構え・心構えを育む） ・国際教育（広い視野でモノを捉える国際的な感性を養う） <p>の3つを掲げており、</p> <p>「学生・保護者からの信頼」 「高等学校からの信頼」 「業界からの信頼」 「地域からの信頼」</p> <p>の4つの信頼を得ることを目的として、学校運営を行っている。</p> <p>この建学の理念のもとで、教育のコンセプトは、業界が求める人材を業界と共に育てる「産学連携教育」であり、また急速にデジタル化している社会的な変化に対応する人材育成をするため、3・4年間で、「コンピュータで創造力を仕事にする学校」をコンセプトとしている。</p>	<p>本校は、建学の理念のもと、「業界が求める人材を業界と共に育成する」産学連携教育を通して、「豊かな創造力で『夢』と『感動』を与えられる人材」を育成していくことを目的に、九州 NO1 のブランド力のある学校を目指す。そして3年間を通じて、「コンセプト」「クリエイティビティ」「プレゼンテーション」と、この3つのスキルを身に付ける。また、4年制の高度専門士を習得できる専攻においては、上記3つのスキルと合わせて「テクノロジー」「マネジメント力」「英語力」の3つの力を身に付け、将来リーダーとなれる人材育成を目指す。</p> <p>教育の目標として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の質を上げ、質の高い学生を育成する。 ・就職希望者全員の就職と業界トップ企業への就職を目指す。 ・マンガ・イラスト・小説のデビューを目指す。 ・大学教育とは違う、独自のキャリア教育を行なうオンリーワンの学校を目指す。 ・中途退学を出さない、学生満足度の高い学校を目指す。 ・留学生への職業人教育を通じてアジア発展に寄与する。 ・デジタル教育の一環として、IT系分野においては、資格取得教育にも力を入れる <p>入学者一人ひとりに応じた最高の到達点を目指していく上で、中途退学者を出さない事も大切な目標と考えている。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症による社会的変化、教育環境の変化を鑑みたニーズに対応していくことも大切である。</p>

2 本年度の重点目標と達成計画

2023 年度重点目標	達成計画・取組方法
<p><教務></p> <ol style="list-style-type: none"> DO3%台にするために、「個」を活かす教育の拡充、学生情報の一元化、コーチングスキルの向上を図るための勉強会実施。 学生満足度を上げるため、業界と情報交換を強化することで最新のカリキュラムを提供する事と、学習者像を意識した魅力ある授業運営を継続。福岡校から全国へ発信できるカリキュラムを作り上げ、業界より指名される教育ブランドを目指す。 社会貢献を意識した教育、マネジメント力育成を意識した教育をカリキュラムへの浸透 <p><広報></p> <ol style="list-style-type: none"> 2024 年度募集より、4 年制定員→160 名、3 年制定員→120 名に変更予定。現在、4 年制募集が好調ではあるが、3 年制募集とのバランスを鑑みた広報戦略、社会の変化に合わせたコースラインナップを準備する。(4 年制：メタバースクリエイター専攻、3 年制：IT エンジニア専攻) 2025 年度募集より、高等課程(定員 40 名)を募集予定。中学生をターゲットとした新しいマーケット開拓準備をしっかりと行う。 入学前 DO を防止するために、①保護者、高校教員に対してのマナーサポートの周知を強化②進路決定後の不安感を軽減するために、1to1 での継続的な接点の強化(LINE、My スクールなど) ③よりリアルな学校生活を伝えるイベント企画、コンテンツの開発④プレカレッジを強化することにより、入学後の学習不安を軽減する <p><就職・デビュー></p> <ol style="list-style-type: none"> 過去の慣例や分野の特性に囚われず、就職活動スケジュールの標準化を目標に全体的なスケジュールの見直し・前倒しで幅広い業界に対応できる態勢を整える。 教育課程に基づいた専門性の高い人材育成を主軸としたアプローチで、第一専門職就職への就職率アップを目指す。 多様化するそれぞれの業界・業種に向けた作品制作力・ポートフォリオ制作力を強化する。専門職就職やフリーランス活動に必要なビジネスマインド・セルフプロデュース・チームワークを強化する。 <p><全体></p> <ol style="list-style-type: none"> 次世代スタッフの育成 チームマネジメントを通して、個の成長を促す組織作り 安定経営の継続(予算遵守また、スリム化を図る) 質の高い教育に裏付けられる、高い教育成果(産学連携)、資格取得率(IT 系)を目指し、さらに英語力、マネジメント力、コミュニケーション力を身に付けた、人材育成を行う 	<p><教務></p> <ol style="list-style-type: none"> 「一人ひとりを大切に」を核に、学生の「個」を伸ばすフォロー、チーム支援の強化といった、対面でのサポートと、教養育む意識を教務全体で本年のテーマとする。そして、学生の様々な情報や数字といったデータを利用しながら、個人の力量で差がでないよう、若手の育成にもつなげていく。 多くの企業と情報交換を行い、最新の情報を基にカリキュラムに反映させると共に、業界の素晴らしさと期待感をもって学業に取りくめる授業運営を行う 企業プロジェクト・特別講義・イベントを実施する際には、社会貢献・マネジメントの要素があるか、という視点で計画。 <p><広報></p> <ol style="list-style-type: none"> 早期広報が勝負となっているため、夏までの動員対策をしっかりと準備する。新専攻だけではなく、主力商品となっている分野のイベントも今まで通りしっかりと準備する。AO エントリー、指定校推薦と 10 月までが勝負と捉え、早期進路決定を後押しするための広報戦略を立てる 8 月に中学生向けのイベントを開催。また、来年 2 月に向けて、認知拡大、超前倒し広報イベントとして、中高生をターゲットとした姉妹校合同の適職発見フェスタを開催する。 入学前からの TEAM ゼロ対策として、広報×教務のフロー広報を実施。入学後の DO 対策として連携するが、入学前 DO 対策(入学辞退軽減策)にもつながるとともに、高等学校が望むプレカレッジを充実していきたい。 <p><就職・デビュー></p> <ol style="list-style-type: none"> 全体ならびに各分野それぞれに応じた通年を意識したスケジュールリングで次年度と学生個々の状況に応じたサポートを実施。 企業セミナー、作品展等業界からのスキル評価など業界接点を増やし、全体的な底上げに繋げる。 学生全員が在学中に「仕事に求められる力」を鍛える経験が積めるように、企業や講師と連携して、授業や企業課題を、より実際の仕事に近い内容や形式にする。 <p><全体></p> <ol style="list-style-type: none"> 若い人材の積極採用も行い、将来のための人材確保も行う。年間を通して様々な勉強会を実施し、滋慶マインドの浸透とスタッフの成長を促す 広報・教務・就職が連携し、部署を超えて学生の夢・目標に対して三位一体でサポートを行う 予算執行のメリハリをつけ、将来を見越した積極的な投資、無駄な予算の削減を行う。 教育の成果が就職・デビュー実績、広報、学生募集の成功と繋がるよう、教務改革を強化していく。

最終更新日付	2023 年 6 月 12 日	記載責任者	花野 恭子
--------	-----------------	-------	-------

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、文化・教養専門課程を設置し、そのもとでコンピュータ、デザインを通じて社会におけるコミュニケーションを図る専門家としての知識及び技能を教育することを目的とする、と学則に定め、滋慶学園グループの「職業人教育を通じて社会に貢献する」というミッションの下で、教育理念、目的、育成人材を明確に定めている、またそれを学生便覧、教育指導要領等に文章化することで、すべての学生、保護者、教職員、講師に周知徹底している。</p> <p>また、3・4年制教育を教育の利点・強みとしており、業界が求める人材を業界と共に育成する産学連携教育を通して、「テクノロジーで創造力を仕事にする」という教育コンセプトは、学外に対しても、ホームページや学校案内などでも、幅広く公表し、まさしく業界が求める即戦力の人材育成として業界からの支持も得ている。</p> <p>また、業界の流れがアナログからデジタルに移行していることに伴い、3・4年後見据えた新商品の開発、教育内容の見直しが求められる。また、18歳人口の減少に伴い、新たなマーケットの拡充も必須と考えられる。</p>	<p>業界が求める人材を、業界に送り出すことを社会貢献とする理念や目的は、今後も変わることは無いが、この理念や目的を、教職員、業界、学生、保護者に周知徹底するのは、常に継続的な活動が必要となってくる。特に最も重要なのは、すべての学校職員がこの理念を共有する事であり、新しい入職者に対して常にこの理念が共有できる環境を整える事が重要であり、日々の朝礼や会議、研修等を通して繰り返し行なう事が重要となってくる。</p> <p>また、業界が求める人材としてのマインドは不変のものであるが、スキルは常に変化しており、特に変化の激しいデザイン、テクノロジー業界において、業界と常に密接に関わる事が重要であり、また企業からヒアリングした情報を、スタッフ、授業を担当する講師と素早く共有し、教育現場に反映することが必須といえる。</p> <p>また、「企業プロジェクト」や「インターンシップ」「業界特別講義」といった業界と密接にかかわるカリキュラムは、こちらから企業に対して、今以上積極的に提案する事が重要であり、新商品のヒアリングの場としても、企業との接点を増やすことが重要である。</p> <p>スキルや知識だけではなく「人間力」「コミュニケーション力」「英語力」「マネジメント力」を上げるための教育も、ますます強化していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 滋慶学園のミッション 「職業人教育を通じて社会に貢献する」 ■ 建学の理念 「実学教育」 「人間教育」 「国際教育」 ■ 4つの信頼 「学生、保護者からの信頼」 「高校学校からの信頼」 「業界の信頼」 「地域からの信頼」 ■ 学校のコンセプトと育成人材 「テクノロジーで創造力を仕事にする」 ■ 教育のコンセプト 「産学連携教育」・・・業界が求める人材を業界と共に育成する事であり 「企業プロジェクト」を中心に、「コンセプト力」「創造力」「プレゼンテーション力」を身に付けた人材育成を行う。 ■ 3年制・4年制教育

最終更新日付

2023年6月12日

記載責任者

花野 恭子

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか	4	「職業人教育を通して社会に貢献する」というミッションの下で、建学の理念、育成人材は明確に定められ、文章化できている。またその理念を実現する為の方法は産学連携教育であり、人材育成の課程も理念に沿うものである。理念が変わることは無いが、達成する為の過程は常に、事業計画の段階で見直しを図っている。	<p>理念や目的育成人材像は広く告知できてはいるが、教職員以外に対する浸透度の確認は行っていないのが、現状である。</p> <p>また、育成人材は常に業界に向けてのものであり、そのためには業界との太いパイプを、継続して持ち続けることが重要であり、課程においても、業界の声を反映した上で常に新しいものを生み出す創造力も重要。</p>	<p>今後は、学生アンケートや三者面談などを通じて、学生・保護者にもその理念が伝わっているかの確認が必要。</p> <p>講師に対しては、講師会、分野別の定期的な会議等で取り上げ、学生指導の根幹的な考え方として、繰り返し伝える。また、より具体的に周知していく為にはホームページの更なる活用も重要。</p> <p>定期的な会議、勉強会時に、滋慶語録等を活用し、学校の理念、方針を常にスタッフと共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生便覧 ・教育指導要領 ・滋慶語録 ・学校案内 ・グループパンフレット ・学校公式 HP
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか	4	教科目標として、学生便覧及び教育指導要領に記載しており、養成目的のためのシラバスは業界から派遣される講師と共に策定されている。	<p>人材要件は、抽象的にならず具体的に定める事も必要。常に業界の意見を取り入れる柔軟な姿勢と、技術・知識のチェックシステムの構築が重要と思われる。</p>	<p>教育課程編成委員会の有効活用また定期的に業界の声が聞ける企業訪問や勉強会の実施。</p> <p>講師に対しての、企業様による、業界セミナーの開催など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生便覧 ・教育指導要領 ・シラバス

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	<input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)にかかわらず、教員採用において、関連業界等から協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか	4	授業を行う講師はほとんどが業界人として活躍する外部の人材であり、校外実習においては、「インターンシップ」、校内実習では「企業プロジェクト」「業界特別講義」として業界からの協力を得て行なっている。	教員の採用は、業界の変化と共に、常に新しい人材の発掘が重要。 また協力企業はできるだけ多くの企業数が望ましい為、インターンシップ協力企業数の増加が必要。	分野の変化にともない、新規企業に対して働きかける事も重要である。それにともない、授業と担当する講師のアップデートも合わせて実施していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ案内冊子 ・企業プロジェクト申請書 ・HPからの講師求人情報提示
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	4	人間教育の一環として「おはよう運動」を、また「企業プロジェクト」として、実際の仕事を課題で取り組んでいる。	企業プロジェクトは、依頼を受ける分野に偏りがあるため、全分野まんべんなく実施することが重要	研修の強化と必要な企業プロジェクトは、時期と内容を考え、こちらから企業に働きかける。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校パンフレット ・プロジェクト 300
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的(3~5年程度)な視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	4	毎年策定する、事業計画書の中で中期の構想を定めており、教職員には研修・会議を通じて周知している。社会のニーズや変化を学科・コースに反映している。	社会の変化が著しく、またスピードも加速されている事より、業界情報のアップデートが必要である。また、新入職者が増えているため、改めて理念の共有が必要である。	自ら業界に足を運んで情報を獲得していくこと。理念の共有に置いては、朝礼や定例の会議、学園全体の研修を通じての教職員への徹底。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
教育理念、目的、育成人材は明確に定められており、理念にそった教育活動も業界と密接に関わったものとなっているが、課題としては、将来構想の業界に向けての周知をもっと積極的に行なっていく事が上げられる。	近年、人間教育の重要性が増しており、企業プロジェクトや学外イベントなどを通して、その機会を増やすことが大切である。また、本学園においては、ホスピタリティを中心に人間教育を施すことにも力を入れている。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校を運営していく上での、「運営方針」その方針に沿った「実行計画」そして実際に運用していく際の「組織」は学校の理念に沿ったものとして、毎年作成される事業計画書のなかで、明確に策定しており、職員の行動の指針ともなっている。</p> <p>また、円滑に運営していく為の意思決定のシステムの方法や職務分掌の規定によって、ひとり一人の職員の業務も明確になっている。</p> <p>さらに、職員の意欲や業務改善の為の研修や給与の規定についても、明確に決められており、今後は、職員の意欲の向上の為に、この給与等の規定などの開示にも更に積極的に取り組んでいく事も必要かと思われる</p> <p>業務の効率化のための、システム化に関しては、あらゆる面でデジタル化がなされており、学生管理の上では、入学前から在学中そして卒業後まで様々な情報を管理できるシステムを構築しており、滋慶学園グループ内の系列企業によって、セキュリティを含めて、管理されている。</p> <p>学校を運営していく上で、様々な組織や規定を構築しているが、最終的には実際に行なっていくのは「人」であるため、職員の意欲並びに環境の改善が重要。</p>	<p>人材の育成並びに、円滑な学校運営のために、職員全員が、事業計画における、理念に始まり、方針、目標、計画までの理解を深める、と同時に常に自分自身の職務を明確に理解する必要があるため、朝礼、全体会、研修、面談などを通して、事業計画の確認に努めていくと同時に、意思決定システムの中での決定権者の規定や規則の明文化を図り、職員に周知していく。</p> <p>また、職員だけではなく円滑に運営していく為には、システムの開発を含めて関連企業との関係も重要になってくる。「予算管理システム」により、デジタルでの予算管理、および人によるアナログ作業の2重チェックができていたため、より強化な予算管理システムが遂行されている。</p> <p>ようやく、新型コロナウイルスも落ち着いてきたため、コロナ禍前の学校行事、イベントに戻していく。しかしながら、コロナ禍で加速したオンラインシステムの活用、DXなどは引き続き活用していく。システムにより利便性は高まっているが、汎用している状況を用途により整理する必要がある。システムが増えることにより、業務負担が増えないよう、基幹システムを統一していく必要がある。</p>	<p>■事業計画書の内容は以下</p> <p>I. 組織の目的</p> <p>II. 組織の運営</p> <p>(1)計画体系</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運営方針 2. 目標（定量的目標、定性的目標） 3. 実行方針 4. 実行計画 <ol style="list-style-type: none"> ① 組織図 ② 職務分掌 ③ 人事採用計画 ④ 広報計画 ⑤ 広報年間計画 ⑥ 学科・専攻のイノベーション ⑦ 新規事業 ⑧ 年間スケジュール <p>(2) 仕組みとルール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インセンティブシステム 2. 業績評価システム 3. 意志決定システム <p>III. 5年後の将来</p> <p>IV. 単年、更に5年後の収支予算書を持って事業計画書としている。</p>

最終更新日付

2023年6月12日

記載責任者

花野 恭子

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	4	運営方針は滋慶学園グループの運営方針を基に、理念、目標、事業計画を踏まえて、毎年明確に定められており、組織内に周知徹底されている。	定められた運営方針は、常に教職員に周知され教職員の行動の指針となる事が重要。 新入職スタッフが増えているため、再度新旧スタッフに向けての定期的な研修が必要と考えられる。	朝礼、全体会、研修、面談などを通して、教職員に対して常に周知していくが、実体験を通して理念が浸透していくため、スタッフの主体的な行動を促す雰囲気作りを行っていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書 ・教務用事業計画書 ・滋慶語録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
運営方針は、明確な目標を定めた事業計画書の中で定められており、1年間の行動指針となっている。またこの指針に沿って各部署の方針も確定される事になっており教職員への周知もできている。	運営方針は、強い組織体制を目指した、 <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方針 ・広報の方針 ・就職・デビューの方針 と、強い財務体制とコンプライアンス、人材育成からなる。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画(3~5年程度)を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか	4	滋慶学園の5ヵ年計画を基に、毎年、作成する事業計画書は単年度から5ヵ年の予算、目標、執行体制、業務分担など、明確に定めており、特に予算は進捗を鑑み年に中間と期末で細かく見直している。	この事業計画に沿って一年間組織運営がなされる事が重要である為、明確な目標設定と実行方針、実行計画を綿密に定める事が非常に重要である。計画と実行に差異が生じている場合は早めの検証が必要。	予算を含め、事業計画が順調に推移しているかどうか、毎月検証していく、特に予算に関しては、事前申請を徹底させ、計画的な予算計画の意識付けをスタッフ全員に根付かせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書 ・予算管理システム

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
事業計画は中長期的な計画から、単年の計画まで、明確に定められており、中長期の目標にむけて、単年度見直しながら、執行体制や業務分担を明確に定め学校の運営は行われており、全く問題なしと思われる。 在校生数の増加に伴い、e-sports ルームの増設、PC など教育機器の購入。また学生ラウンジの改修工事なども行った。	短期・中期に常に見直しをかけていくことが重用。特に予算は4半期ごとの見直しをかけている。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4	理事会・評議員会ともに、寄附行為に元づき適切に開催され、学園グループの関連企業の支援のもとで、議事録の作成、管理は適切に行なわれている。	法令に則って適切に開催しており、問題は無いものと考えている。	今後も法令に則って適切に開催していく。	
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4	<p>学校運営に必要な部署は、学園グループの協力企業を含め、すべて整備されている、また事業計画書の中の組織図では、すべての職員が部署ごとに明記されており、学内での意思決定が体系的に判断できるものとなっている。</p> <p>また、全体会を含め各部署ごとに行なわれる、会議や委員会ではすべて議事録をとっており、運営上必要な委員会においては規定を設けており、必要に応じて適宜見直し改正を行なっている。</p>	<p>組織は、学校を運営していく上で、状況に応じて、必要となってくるので、常に新規に委員会を立ち上げる事のできる柔軟性を持ち合わせることが重要。</p> <p>また、各部署、各委員会が単独の組織として縦割りの組織にならずに、各委員会情報が全体に伝わる仕組みが必要と思われる。</p>	組織を運営していく上で最も重要となるのは、人であるため、運営できる人を育てる研修に力を入れていく。また、組織における意思決定はトップダウンではなく、構成員の多くの意見が集約できるように努め、常に議事録を持って改善に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書 ・組織図 ・会議議事録（広報）（教務） ・規約（コンプライアンス委員会）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	□学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか	4	事務職員もすべて、目標の設定と学校運営の役割が明確になっており、研修を通じた資質の向上が図っている。	事務職員は正社員だけではなく、派遣スタッフも在籍しているため、責任の所在があいまいにならないようにする事が重要。また、各リーダーのリーダーシップが重要と捉え、トップダウンのみの指示にならないよう、責任の所在を細分化する必要がある。	構成員全員が、常に自分自身の職務を明確に理解する必要があるため、会議研修を通じて常に徹底を図る。 また、業務を担当することにより、主体性やリーダーシップが育まれるため、積極的に権限移譲していく。	<ul style="list-style-type: none"> 目標面接シート 研修プログラム

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会をはじめ、学内における委員会など、学校運営に必要な組織は、すべて適切に設置されており、規則・規制の整備ならびに、運営上大切な職員の育成においても、研修を中心に行なわれている。	本校における運営は、学校全体での運営だけでなく、分野をゲーム・CG系、e-sports系、IT系、デザイン系、デビュー系そしてポップカルチャー系と分類して、それぞれでの目標を設定している。また、それぞれにリーダーを設け、縦割りにならないようチームマネジメントを実施している。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	4	運営上必要な人員は適切に採用されている、また人事、及び給与の規定、人事考課に関しては、本部において基準が設けられており、その方針に沿って整備、運用が行なわれている。また目標面接シートをもとに、本人の目標に向けた達成度を確認する事もできるようになっている。	数字で現れる数値目標だけでなく、情意を含めた意欲など全般での評価が重要であり、職員個人が自分自身の評価が適切になされていることを職員が理解できる事も重要であるため、規定などの開示も重要と思われる。	個人面接を通じて、人事委員会の評価基準規定を公開していくことで、数値目標だけに限らず、情意の目標を持って適切に評価されている事を通達していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・人事委員会評価基準規定 ・事業計画書 ・総務人事委員会基本給案

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画書で、次年度の目標を策定する際に、必要人員が確定し、そこで講師を含め、職員、アルバイトなどの補充スタッフを予定し、その予定に沿って確保していく事になり、給与などの支給に関しては、本部の規定に応じて支給される事となる。	新卒の初任給の規定を含め職員の基本給は、総務人事委員会のモデル案を下に規定されており、初任給においては地域に応じた調整給での差異が設けられている。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	4	事業計画書の中で、意思決定システムは明確に定められており、決定すべき案件の目的と、決定方法を定めている。	現状決められている意思決定システム（会議）だけでは補えない部分は、常に事業計画を見直していくことが必要であるのと、主催者が決定権者であることの周知が必要。	意思決定システムの中での決定権者の規定や規則を明文化していき、その事を職員に周知。	事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
意思決定に関しても、事業計画書の中で、決定案件に応じた数多くの決定方法を整備しており、すべて円滑に運用されている。	意思決定システムは、 ・方法・目的・実施日（頻度）・主催者・対象者の区分で規定している。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に（学生情報管理）システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか	4	<p>本校では入学前から、在学中そして卒業後のサポートまでを様々なデジタルシステムを導入して、業務改善、情報の一元化を計っている。新たにガルーンを導入し、スタッフのコミュニケーションツールとして活用中。マイクロソフト Teams は引き続き在校生と教務スタッフのツールとして活用中である。</p>	<p>デジタルシステムを用いた効率化は重要である反面、メンテナンスやセキュリティ管理が非常に重要である為、十分な予算を考慮しておく必要がある。</p> <p>また、デジタルツールの知識格差、さらに複数の基幹システムを使用している事により、システム活用の個人差が出ている。</p> <p>IT リテラシーについての教育も必須。</p>	<p>新規システムを導入する際に、既存のシステムの見直しが必要である。</p> <p>また、ようやく慣れてきているが、次々と新しい機能が増えてきているため、デジタルツールを介してだけではなく、口頭でのアナログコミュニケーションも必須である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータシステム画面印刷データ ・個人情報保護マネジメントシステム運用状況調査報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
グループ内のサポート企業により、システムの開発から運営管理まで行っており、情報データに関しては一元化で効率が図られると共に、姉妹校との共有化も可能となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ AS システム ・ 広報システム ・ 出席管理システム ・ サクセスナビ ・ 予算管理システム ・ sigfy (LINE) ・ Teams (マイクロソフト) ・ ガルーン

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>滋慶学園の「職業人教育を通じて社会に貢献する」というミッションを大前提として、業界が求める「人材」を育成していくための産学連携教育を柱に教育を行っている。その業界である、クリエイティブ・テクノロジー分野は、常に技術が進歩し、作品の方向性が変化することも多く、業界の「流れ」が急激に変化することが多い分野である。そのため、業界の動向を常にキャッチするために様々な手法を通してし、その変化に対応していく必要がある。</p> <p>カリキュラムは、体系的に編成され、「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」、「特別教育分野」という構成になっており、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものにもなっている。そのカリキュラムは、業界からヒアリングした内容を姉妹校と連携したクリエイティブ運営会議で検討し、カリキュラム・シラバスに落とし込んでいる。また授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を実施している。</p> <p>成績評価・単位認定・進級認定・卒業認定については、学則に則り、基準を設け、学生便覧にも記載し明確にしている。</p> <p>課題としては、中途退学者を減らすことと、教育の質を業界の変化に応じてさらに向上させることの二つの点があげられる。</p>	<p>各専攻の教育目標、育成人材像は、その専攻に対応する業界の人材ニーズと変化に対して、正しく方向づけるため、常に業界に対しアンテナを張り、学校の理念に反映させていかねばならない。その手法として、教員（非常勤講師）とのコミュニケーション、企業との接触（就職関連行事、企業訪問、企業課題提供）、姉妹校連携による情報の共有、業界関連ニュースへのアンテナを常に張っておく等の色々な手段を今後も怠ってはいけない。</p> <p>学生が目指す、業界が求めるスキルや人材像を、3・4年間のフロー教育に落とし込んで、学年毎の到達目標を定め、カリキュラム・シラバスを作成する。大切なのは変化を先取りしつつ、それに対応して養成目的や教育目標の見直しを行うことである。</p> <p>本校の授業は業界人である非常勤講師が行っている。講師の採用には厳正を持って行い、技術・知識だけではなく、人間性の部分においても高いレベルの指導ができる人材を講師として採用している。それも近年の技術に対応したレベルの教員をさらに確保していくことが重要であり、そのためには多くの業界とのつながりを持って人材の確保と育成を行わなければならない。</p> <p>様々な個性の学生を、一人ひとり見ていくことが本校の特徴でもあり、さらなるサポート体制を敷いて中途退学を減らしてゆく。</p>	<p>滋慶学園 COM グループ「クリエイティブ教育部会」において学園全体の教育理念のもと産学連携教育カリキュラムの構築、方針・計画を策定し、修業年限内で確実に教育目標を到達できるように取り組んでいる。常に業界ニーズを把握し、先を見越した教育カリキュラムを構築し実施している。また、カリキュラム、学生サポートなどに分かれた、教育部会を全国と取り組み情報交換や成功事例のつい平展開を行いながら、学生の評価システム、カリキュラム、イベント運営、就職・デビューについて、話し合いを重ねている。</p> <p>「産学連携教育」における授業カリキュラムの柱として位置づけ実施しているのが「企業プロジェクト」である。このカリキュラムでは、「コンセプト力」「クリエイティブ力」「プレゼンテーション力」の3つを学ぶことにより、「イノベーション」「クリエイティビティ」「リーダーシップ」の3つの力を身につけることを到達目標としている。そのため本校では、通常授業とは別に、業界特別講義や業界特別ゼミを数多く開催することで、今後更に、目標達成を目指していくこととしている。</p> <p>各専攻の教科担当は、企業や業界人である講師から常に最新のニーズや現状情報等を引き出し、企業訪問や研修・セミナーなどに参加することで、業界情報・ニーズを抽出・確認している。</p> <p>それらを総合的に協議した上で、教育目標、カリキュラム等々へ反映させ、業界で即戦力となりうり人材育成に役立たせている。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	4	業界の求める即戦力の人材を育成するために、教育編成方針や実施方針は、教育指導要領にて文書化している。	学校の教育方針を定めているものの、全ての講師に浸透させ、年々変化する業界に対応し、方針に沿った授業運営を行っていくことが義務であり、課題である。	業界で活躍している講師の情報は元より、企業との連携を図り、業界の動きに常に目と耳を傾けていく。講師会や講師との細かなミーティングで、丁寧に方針の浸透に努めていく。	学生便覧 教育指導要領
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	4	<p>専攻により、3年制4年制があり、学年毎の到達目標や学期毎の目標を設定し、修業年限の中で、到達すべき目標を定めている。またそれは建学の理念である「実学教育」「国際教育」「人間教育」に基づいて設定され、適合している。</p> <p>資格に関しては、業界で必ずしも要するものではない場合が多いが、IT系での資格対策は必須である。</p>	学校の基本理念は変化することはないが、クリエイティブ・テクノロジー業界は、特に技術面に関して変化し続けており、それに対応したカリキュラムと目標をしっかりと明確にする必要がある。また、業界が求める人間力の到達レベルを可視化することが課題である。	教科担当は、企業連携による課題への取り組みや、校内での合同企業説明会、就職関連イベントでの情報収集、企業訪問によって、常に情報に対してのアンテナを張り、教育の指標としていくことを、常に行っていく。	専攻別到達目標 シラバス

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各専攻の教育目標、育成人材像は、その専攻に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけるため、常に業界に対しアンテナを張り、講師を含めた業界関係者にヒアリングを行い、学校の理念に反映させている。そしてそれを3・4年間のフロー教育の中で、学年毎の到達目標を定めている。	滋慶学園COMグループ「クリエイティブ教育部会」において学園全体の教育理念のもと産学連携教育カリキュラムの構築、方針・計画を策定し、修業年限内で確実に教育目標を到達できるように取り組んでいる。常に業界ニーズを把握し、先を見越した教育カリキュラムを構築し実施している。

最終更新日付

2023年6月12日

記載責任者

空閑 結子

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	4	<p>教育課程を編成する体制は、校内のみならず、姉妹校と連携した「クリエイティブ教育部会」で行っており、議事録を作成し内容は明確になっている。科目は、一般科目としての基礎分野、それに専門分野、特別専門分野に分かれている。</p> <p>授業時間数や単位数は、学生便覧に明示しており、進級・卒業に必要な単位数は明確にしている。</p> <p>目標に対してその到達のためのカリキュラムは業界とともに考え提供しており、実習を中心に講義・演習を行っており、企業からの課題を実践教育として取り入れ、基礎技術だけでなく、業界が必要としている現場力を身につけるための講義・演習・実習を行っている。</p>	<p>教育課程を編成するには、クリエイティブ・テクノロジー業界の変化に応じる必要がある、そのために情報収集と各授業の体系的連携を常に行っていく必要がある。</p> <p>既存の教育課程でも、常に最新にしていく必要があるが、新しい分野が、毎年増えていくので、新たな業界との接点を作る事と、産学連携教育へのご理解ご協力をいただくことが必要な事項となる。</p>	<p>課題提供や就職関連での連携を、業界の講師を通じての情報収集のみならず、教育課程編成委員会での意見交換を通じ、常に改善策を構築し実施していく方針である。</p> <p>教育部会においては、専攻別分科会の実施が通常化したのが、全国の姉妹校とのネットワークを生かし、情報の共有は新を活発化し、授業内容に取り込んでいく必要がある。</p>	<p>学生便覧 教育指導要領</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input type="checkbox"/> 授業科目について、授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているかを <input type="checkbox"/> 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか	4	<p>実践カリキュラムの企業プロジェクトをどの専攻でも内容・方法・教材を実践的な内容に添って実施している。</p> <p>履修に関しては、必修授業を基本としており、必要に応じた履修指導を行っている。</p> <p>授業科目は、授業ごとにシラバスやコマシラバスを作成しそれに基づき授業を行っている。課程は毎年見直しを行っている。</p>	<p>入学時と卒業時では業界が変化していることもあり、数年後も見越したシラバスをたてなければならない。</p> <p>学生の入学年度に立てたシラバスが、そのまま通用しなくなる場合が多く、常に見直しが必要。</p>	<p>業界は社会の変化とともに常に変化する。この動向に注力をし続けることが大切である。その為には、業界・企業との連携は必要不可欠であり、講師、業界、卒業生との定期的な交流を行ってその意見を取り入れていく。</p>	<p>学生便覧 教育指導要領 シラバス</p>
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3	<p>在校生に向けては、授業アンケートを行い、授業の必要性のみならず理解度を含め意見の聴取ができています。</p> <p>また、職業実践専門課程の認定に向けて設けた教育課程編成委員会での意見や学校関係者評価委員の意見や評価を参考にし、カリキュラムや授業運営に活かしている。</p>	<p>現在、在校生の授業アンケートによる評価は、体系的に実施しており、結果はデータとして保存活用しているが、卒業生の意見を多く聞ける機会が少ないのが現状。</p> <p>分野により、関連する業界・期間との意見聴取の程度のムラがある。</p>	<p>現在、多くの卒業生が業界で活躍し、講師として学校教育に参加されている。卒業生講師からの意見も積極的に取り入れていく。</p> <p>キャリアセンターと協力して、業界との接点を増やしていく。</p>	
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	3	<p>キャリア教育を行うことで業界が求める人間力を育成している。その意義は入学時の導入教育で伝えており、専門教材も用意して授業も行っている。学友会活動・学校行事など、都度キャリア教育に繋がるように工夫している。</p>	<p>最初は、学校からの指導で身に付けていくが、次のステップで、学生自身で、目的をもって実践していくプロセスを構築していく必要がある。</p>	<p>授業や学校行事と、自己実現のために、自ら行動に移していくプロセスを、入学から卒業までのロードマップで見える化をしていく。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 続き	□キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3	人間力の評価は、業界で働いている卒業生や業界関係者からヒアリングの上、評価をいただいている。	口頭ベースでは、ヒアリングを行い、教育に反映しているがデータとして集約できていない。	アンケート様式等を作成し、同窓会での実施や合同企業説明会等で企業アンケートも実施する。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	□授業評価を実施する体制を整備しているか □学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか □授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか □教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	4	年2回(前期・後期)、在校生に対し授業アンケートを行っており、授業内容だけでなく、講師の指導に関することから、メンタル面に関することまで評価を行っている。 この内容は、講師にフィードバックされ、よりよい授業運営・授業改善に活用している。また、アンケート結果は、学生に対し公表も行っている。	アンケート結果の改善には取り組んでいるが、あらゆる授業において全ての項目が100%満足する内容に到達できていない現状がある。評価ポイントの向上、即ち授業改善をさらに細かい部分において行う必要がある。現在行っている授業評価アンケートは、学生に対してのみであり、関連業界に対しては行っていない。	現状のアンケート結果の改善は、講師に対して、学校理念や目標をさらに共有していただくことが大切であるので、学校全体の講師会や専攻別の講師会等を定期的に行い、徹底的に意識の改革を行っていく。 また、アンケート結果を非常勤講師と共有するだけでなく、改善するまで担当教務が責任をもって連携していく。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
「実学教育」「人間教育」「国際教育」の建学の理念のもと、入学時から卒業時までの過程及び卒業時ゴール(到達目標)をしっかりと定め、各学年、各学期で適切な科目履修ができるようにカリキュラムが組まれている。またそれをシラバスとして落とし込んでいる。またその内容は、業界の動向や意見を反映されたものとなっており、その評価も行い、また次年度につなげている。	専攻ごとの教育目標、育成人材像は、その専攻に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけるため、常に業界に対しアンテナを張り、講師を含めた業界関係者にヒアリングを行い、学校の理念に反映させている。そしてそれを3・4年間のフロー教育の中で、学年毎の到達目標を定めている。また教科毎の到達目標はシラバスに明記している。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	4	<p>成績評価の基準は、学生便覧に明記されており、入学時オリエンテーションにおいても説明している。</p> <p>成績評価基準は、定期開催の講師会にて伝達され、講師によってぶれることなく、すべて同じ基準で評価を行っている。</p> <p>他の教育機関の履修の認定は、履修内容を確認し適切に対応している。</p>	<p>実習を中心とした授業における評価なので、数値として現れない作品をどう評価していくかが実際に難しい部分がある。</p> <p>基準を数値として明確にできるものではないために、現状の出席と作品提出という行為自体も一定の評価基準の一つとなっている。</p>	<p>明確な判断基準があれば、学生も職員もわかりやすいと思われるが、個々の履修内容によって単位互換を行っているので、基準を明確化しにくい現状がある。</p> <p>改善方法も難しいのが現状である。</p>	学生便覧 教育指導要領
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	3	<p>学校外でのコンテスト等の参加に関しては報告書のフォーマットがあり、結果の報告も行われている。</p>	<p>学校が関連するもの、紹介したもの以外の、個人で応募したもの、受賞に関して把握できていない可能性がある。</p>	<p>個人的なコンテスト参加に関しては、取り組みのレポートや結果を提出することで単位に繋がる事を明示し、把握に繋げる。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>成績評価に関しては、学校の基準のもと全ての講師が基準からぶれることなく、評価を行っている。学生に対しても点数や成績の評価基準を学生便覧で明確にしており、入学時オリエンテーションにおいて説明を行っている。</p> <p>積極的な公募への作品の応募を行っているが、結果を含めた実態に対して評価基準を設けている。</p>	<p>成績評価は、授業課題やテスト等による点数評価に加え、出席に関しても基準を設けてそれらは学生や講師に対し周知されている。</p> <p>クリエイティブ・テクノロジー業界の就職において必要なものは自身のスキルの提示であるが、成績評価も大きくかかわるので日々の積み重ねの重要性も学生に対し指導を行っている。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

3-11 資格・免許取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	4	専攻によって、資格を中心に取得していく専攻と、資格を必要としない専攻があり、資格取得の中心になる専攻では、資格・免許の内容・取得の意義について明確している。	今後、職種によっては必要になる資格が発生するかもしれないので、情報収集を怠りなく行っていく。 資格取得のための授業や講座を設定する前に、適切な資格なのかを、見極めていく必要がある。	IT系には、より高度な専門資格取得に力を入れていく。 業界との情報交換では、資格の選定や導入などの視点も必要。	
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	4	資格取得の中心になる専攻では、特化した講師や授業を設けている。専攻によって、不合格者に対しては、卒業後も該当している授業に関して無料で受講できるサポートを行っている。	資格によっては、集中講座のみになっているものもあり、時間数的に学生の学習深度に合っているかをもっと検証する必要がある。資格が必要な専攻のみ卒後サポートを実施している。	オンデマンド教材など、授業以外でも、自分のペースで資格取得できるように充実させていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
テクノロジー色の強い専攻が増えてきているため、専攻によっては、資格取得に合わせた授業カリキュラムを組んでいる。まずは、時代の流れに合わせて、専攻関係なく、AIの基礎知識を身につけ AI900 Microsoft Azure AI Fundamentals 検定を実施している。	社会で求められるコミュニケーション力を向上させるために、「JESC 認定コミュニケーションスキルアップ検定」試験とその対策授業を実施している。 TOEIC に挑戦したいニーズに応える、独自のオンデマンド教材を提供している。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界と連携しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか <input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか	4	<p>本校の理念、教育目標等を充分理解し、専門性と人間性を兼ね備えた人材を教員(非常勤講師)として確保し、教育成果を上げるため、レベルの高い人材を確保している。</p> <p>またその人材確保においては、通常募集だけではなく、関係業界の協力のもと人材を確保し、配置人数等、毎年カリキュラムとともに見直し、計画を立てて実行している。</p> <p>非常勤講師には、業界で活躍している卒業生の採用も活発化している。</p> <p>常勤のスタッフに関しては、募集、採用、昇格等は就業規則で定められており、明確にされている。</p> <p>教員それぞれの授業時間数や学生数は、管理、把握できている。</p>	<p>業界の最前線で活躍する講師を地方で確保することの難しさは常にある。</p> <p>業界によっては東京に一極集中しているような業界もある。</p> <p>今後も最新の技術や情報を学生に提供するために、定期的に講師開拓が必要。</p> <p>クリエイティブ・テクノロジー業界は、経歴、実績や作品評価を行うしかないのが現状であるが、専門性が高いことと、教授力や人間性が高いことは別であり、両立が難しい場合もある。</p>	<p>まだ、一部専攻では講師の確保が困難な状況が起こっている。業界の連携を行っていても、地方という壁で難しい状況であり、なかなか思うようにいかないことがある。</p> <p>業界だけでなく、姉妹校ネットワークを使って講師の確保を行うことも必要で実際に行っている。</p> <p>教員採用の判断基準に関しては、経歴と実績が判断材料になるが、採用時の面接や採用後も、人間性の部分も含めてチェック体制とコミュニケーションが必要となる。</p> <p>毎年講師の経歴を提出してもらい、現状の仕事の評価を行うとともに、技術力の確認を行っている。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	3	授業を行う非常勤講師には、教授力に加え、マインド、コミュニケーション等、目標達成にむけ、様々なことを授業アンケート通して把握している。講師研修会を年度開始前と年度中間に行っており、教職員に対しては各種研修を行っている。	業界のプロである講師に対し、細かい業界内容に関する指導・指示に関して指導することは難しい事もあり、授業運営や、学生対応に対しての研修が中心で、実技的な研修が行われていない。	既に実施しているが、授業満足度が高い講師による、講師への勉強会を講師会で行っている。このように、成功例の展開を行って、資質向上に努めていく。	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか	3	分野毎に担当教職員と非常勤講師が配置され、それぞれの役割は分けられており、業務分担は明確に分けられている。また科目担当教員で講師会を開催しており、連携体制を作っている。他に姉妹校との教育部会や分科会において改善の取り組みが行われている。教職員と非常勤講師は常に連携し、協力体制を構築している。	講師会での意見交換や目的の共有、カリキュラムの連携は図られてはいるが、講師間が直接顔を合わせるの、担当曜日が違うと難しく、講師会以外ではなかなか直接情報交換できにくいのが現状。	講師会を適切な時期（何事も早めの取り組みを前提として）に開催することで、講師間の情報共有を行っていく。教科担当教員を軸に、連絡体制を整え行っている。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校では、基本的に教職員は学科・専攻のマネジメント、学生指導に専念し、授業は業界人である非常勤講師が行っている。そのため、講師の採用には厳正を持って行い、技術・知識だけではなく、人間性の部分においても高いレベルの指導ができる人材を講師として採用している。	講師の採用においては、担任や業界からのからの推薦で、教務責任者である教務部長の面接を経て決定している。業界の第一線で活躍し、滋慶の理念を共有できる人材を確保するように行っている。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学修成果は、目標達成すなわち就職実績であると考える。</p> <p>就職率（就職者/就職希望者）100%を学修成果の最終目標に学校運営を行っており、3月末現在の就職率は87.8%（昨年同月：93.9%）で推移している。就職未決定者については、キャリアセンターサポートを受けながら就職活動継続中。</p> <p>早期内定獲者の多くは当初から主体的に活動していた学生である。また、その背景に早期からの就職イベント（スタートアップセミナー、学内合同・単独企業説明会等）を実施で、多くのチャンスを提供した結果が表れている。</p> <p>開校以来、就職率（就職者/就職希望者）100%を達成しているが、専門職就職率、対象率の向上も課題として取り組んでいる。</p> <p>ただし、デビュー系の学生は、一般職に就きながら活動を継続する者も多く、専門職就職率が100%に近づきたい現状がある。</p>	<p>早期の内定獲得率を上げるためには、早期・多様化する業界側の就職活動スケジュールに適応できるよう、各種サポートスケジュールも随時見直しを図り順応させていく。</p> <p>専門職就職率の向上のため、定期的にキャリアセンター、担任との面談を繰り返し、学生本人の希望を汲みながら業界就職への意識付を行うようにしていく。さらに業界の求めるスキルに対応できるよう特別講義、企業プロジェクト、合同企業説明会、卒業進級制作展等を通し、業界との接点を増やす。</p> <p>また、就職対象率向上については、入学時よりキャリア教育に力を注ぐ。さらにオリエンテーションやホームルーム等を活用しての就職の意識付けと日々の授業における重要性を説く。積極的なインターンシップや会社見学会を実施することにより、職業意識と自分の将来像を描かせる取り組みも行う。更には保護者会の実施など多方面からサポート体制を整える。</p>	<p>就職希望者の就職率は毎年100%を達成しており、専門職就職はそのうちおよそ60%。3月末現在の専門職就職率は61.7%である。（就職系：67.8%、デビュー系：42.9%）</p> <p>ポートフォリオのクオリティが専門職就職率に直結するため、卒業年次に対策を取っても手遅れである。よって入学時からの就職活動を意識した教育の質向上が重要。</p> <p>専門職就職率を向上させるため、企業と連携してのインターンシップや校内セミナー、会社見学会を実施、それを契機に受験を希望する学生は数多い。</p> <p>資格の取得が就職やスキル向上の直結するIT系専攻も学生数も増。目指す業界に応じ、就職対策としての資格取得に柔軟に取り組んでいく。</p>

最終更新日付

2023年6月12日

記載責任者

中島 厚志

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか	3	卒業時まで希望者全員就職決定を目標とし、職業人教育を柱に、職業意識を高め、就職率の向上を図る。企業と連携し学内就職イベントの合同企業説明会(年2回)、単独企業説明会、学内選考会を実施。 また、就職活動状況や就職数、就職率等を月毎で管理、前年以前との状況比較・向上を図っている。	専門分野への就職率が3月末現在61.7%、就職対象率が71.3%。今後はデビュー希望者も含め専門職率と対象率の向上で質を求めていく必要がある。 IT系、e-sports系分野も卒業生を送り出すこととなり、今後も新たな分野の卒業を控え、更なる業界への広い展開が必要。	キャリア教育を前提に入学当初よりキャリアセンターと教務が目標設定から就職までを連携し、ひとり一人の希望に応じた進路指導をさらに徹底的に行う必要がある。	過去から現在までの就職状況表及び就職活動状況表 就職セミナー実施予定表

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
3月末現在就職率87.8%(昨年同月:93.9%) 専門就職率61.7%(昨年同月:54.%)で推移しているが、専門就職率向上と卒業年度生全体の就職率の向上を目的としているため、キャリアセンターと教務が一体となり、業界から必要とされる人材育成に力を入れている。	全国から様々な分野の企業を学内に呼び込み、TECH.C.福岡の学生だけを対象に企業説明会並びに、選考までを開催する合同企業説明会、単独企業説明会を実施。年間来校企業数180社を目指して取り組むことで、さらなる就職支援を目指していく。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	中島 厚志
--------	------------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	3	専攻の多様化していく中、特に IT、e-sports 業界では資格取得が求められる。今後目指す業界に応じ、就職対策としての資格取得に柔軟に取り組んでいく。	特に IT 分野においては資格取得が就職やその後のキャリアに影響する分野もあり、その対策と結果数値管理を明確に行う準備が必要。	業界に対する情報収集を怠りなく行っていく。また、過去資料として受験実績は保管していくようにする。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今後も新たな専攻の設置に応じて、資格取得の着実な実績構築に向けた対策を行っていく必要があり、将来における対策の準備に力を注いだ。	クリエイティブ業界のスキルを計る機会の一つに、公募（コンテスト）がある。各ジャンルの公募に対しては、応募を促しており、その結果が良ければ、資格と同等以上の効果を就職時に果たすことになる。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	中島 厚志
--------	------------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	3	<p>企業ヒアリング、同窓会網より、卒業生の活躍の情報収集を行っている。また卒業生のコンテスト状況について、特にデビュー情報は、各編集社や担当との連携を持って情報を収集している。</p>	<p>新卒での就職先においては、卒業生の動向を掴みやすいが、中途退職をした場合、個人情報保護の観点から再就職先が掴みにくい場合がある。同様に卒業後デビュー者も本人からの申告に頼る部分もある。</p>	<p>定期的な企業ヒアリングや同窓会、卒業進級制作展等イベントを用い、また同窓会も活用し就労状況の把握を行う。</p>	<p>学校案内書 COMTODAY</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生・在校生の社会的活躍・評価は、本校の教育成果そのものであり、教育成果は目標達成の努力の結果である。また、実績に関しては積極的に内外に公開することにより、モチベーションの向上につなげている。</p>	<p>卒業生は様々な分野で活躍しており、表面的に目立った活躍だけでなく、地道な活動で業界を支えているような卒業生にもスポットを当てることにより、クリエイティブ業界の魅力を伝えていきたい。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	中島 厚志
--------	------------	-------	-------

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の目的は学生全員を卒業へ導き、社会へと送り出すことであり、学生支援においては、就職支援と中途退学への対応は最も大切なものと考えている。その為、各相談窓口に加え、多くのサポートシステムを用意している。項目としては・就職支援・住居環境支援・学費支援・メンタルを含めた健康サポート等、学生支援体制を整えている。</p> <p>具体的には、就職ではキャリアセンターが個別指導から就職イベントまで総合的な支援を行っている。学費支援では日本学生支援機構を柱に地方自治体奨学金や、学園独自の滋慶奨学金制度も用意し、様々な環境の学生に対しても対応ができるようにしている。また、銀行・信販系教育ローンも案内できる体制を整え、専属の学費担当があらゆる相談に応じられる体制を整える。学生生活の相談については、基本的に担任が行うが、内容に応じ SSC（チューデントサービスセンター）がその解決にあっている。滋慶学園グループには、学生・教職員の健康管理面をサポートする「慶生会クリニック」があり、健康診断から各学生の診察・治療まで幅広く対応している。</p>	<p>学内ネットワーク(Microsoft teams、sigfy、就職システム等)を適宜活用することで、幅広くあらゆる支援制度があることを告知していくことにより、さらに安心で安全な学校生活が送れる環境があることを周知していく。</p> <p>また、各サポートを実施していくにあたり、個別対応できるよう、専用の相談室を設け、学生が相談しやすい環境を整備していく。</p> <p>就職支援に関しては、キャリアセンタースタッフが、個別相談に随時対応し、就職活動状況の把握を行い適切なアドバイスを行っていく。</p> <p>そうすることにより、各学生の動向をしっかりと把握することができ、就職活動の方法がわからない学生がいたとしても、随時アドバイスをすることができる。</p>	<p>職業人教育を行う本校において、学生にとっての目標達成は「就職」「デビュー」である。</p> <p>そのための支援は単に教育だけではなく、リアルタイムな業界の情報提供とそのパイプ役となるべく、本校では「キャリアセンター」「デビューセンター」という専門部署を置き、専任スタッフを配置している。</p> <p>キャリアセンターは、現場でのインターンシップの指導から、個別相談、就職支援イベントの開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システムを構築し、迅速な対応ができるようにしている。</p> <p>デビューセンターは、業界への懸け橋として、作品制作に関することから作品を業界に見てもらうための支援まで行い、デビューにつながるチャンスを数多く提供できる体制を構築している。</p>

最終更新日付

2023年6月12日

記載責任者

中島 厚志

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	3	就職担当として、専任のキャリアセンタースタッフを置き、担任、企業との連携を取りながら、就職支援を行う。就職活動の状況は教務ミーティング等で情報の共有を行う。 就職活動のモチベーションを高めるため、企業と連携し、就職セミナーや学内合同企業説明会、単独企業説明会を開催。 キャリアセンタースタッフ、担任による就職対象者に個別面談の実施、個々に応じたサポートを行っている。	今後は卒業生に対するキャリア支援強化が求められる。 就職イベントに対し、対象学生の参加率が低く、就職に対する意識付けの問題であり、そのための施策が課題。個別相談に関しては、専用の相談室を設けていないため、学生が相談に訪れることが気軽ではない状況になっているかもしれない。	図書室に就職情報等を閲覧できる場を設けている。 卒業年前年秋に就活スタートアップセミナーを行い、毎年2回の合同企業説明会、単独企業説明会や模擬面接会を実施している。就職活動開始前には面談を行い、それ以降も必要に応じ個別対応を行っている。また、専攻ごとに就職対策授業も通常授業で行っている。	学生便覧 就職者データ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専門分野での就職を第一に考え、就職の専門部署であるキャリアセンターを設け、専門スタッフが個別指導から就職イベント開催まであらゆる就職支援を行っている。また、インターネットによる求人情報閲覧や情報の発信、ノウハウ体制の確立を行っている。	グループ独自の就職支援システムを運用、年間180社近くの企業を校内へ招聘する「合同企業説明会」「単独企業説明会」等、就職イベントを開催。また、業界研修指導まで、学生の為のあらゆる支援として、キャリアセンターが独特な活動を行っている。

最終更新日付

2023年6月12日

記載責任者

中島 厚志

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	3	<p>中途退学を防止するための会議を定期的開催しており、そこで不安のある学生の情報を教職員で共有し連携して対策を行っている。また、その記録は保存されている。</p> <p>心理面では、外部カウンセラーによる相談室を用意している。</p> <p>学習面は特別補講等を行う体制を作っている。</p> <p>担任以外でも対応できる体制を作っており、学校の中で、学生が話しやすい体制を作っている。</p>	<p>昨年度は、退学者を減らすことが出来なかった。原因として、休学者の退学。一部の専攻の満足度が低かったことがある。</p>	<p>改めて、休学期間のフォロー体制を見直している。休学計画書を作成し、担任以外もチェック・フォロー体制を作る。</p> <p>学校が自己実現の場になるよう、カリキュラム以外にも、様々なチャレンジができるよう、授業以外にも、多様化している学生が活動できる場を増やしている。(少人数授業・学友会活動・部活動など)</p>	過去3年のDO率表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>毎年、入学者目標と退学者を出さない指針と方針を設定し、目標の達成度合いを確認・管理しているので、各年度の数字は明確になっている。</p> <p>学生の満足度を上げるためのサポートを常に考え実行するよう心がけている。</p>	<p>教務のチーム体制を確立し、担任一人のスキルに頼らないようにしている。一人ひとりに応じた対応策を立てていく。また将来の目標が変わった学生への進路変更委員会を通じての、グループ校への転校・編入も案内し、実績も積んでいる。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか <input type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか <input type="checkbox"/> 卒業生からの相談について、適切に対応しているか	4	<p>学生相談室(滋慶トータルサポートセンター)を設置し、専属カウンセラーが学生の悩みや相談を受け付け対応する体制を整えており、学生に対しても案内を行っている。また校内にポスターも掲示している。</p> <p>相談内容は保管されており、状態に応じて、提携医療機関(慶生会クリニック)と連携をとっている。合理的配慮も行っている。</p> <p>卒業生の就職・転職相談は卒業年度に関わらず行っている。</p>	<p>専任カウンセラーとの連携体制ができた学生は、サポート面の拡充が図ることができているが、カウンセラーとの面談そのものも拒否し引きこもるような状況に学生がおり連携ができない学生もいる。</p> <p>また障害を持っていることが入学後にわかる場合も多い。入学前に判明していると事前に対応が図れるのだが、入学前に相談を受けることはごくわずかである。</p>	<p>学生とのコミュニケーションを、さらに強化し、抱えている問題によって、サポートするスタッフを増やしていく。入学前の情報等から一人ひとりの学生の特性を把握して、問題が起きる前からJTSC(カウンセラー)との連携強化を図るようにしている。</p>	学生相談室紹介チラシ SSC アクセスカード
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	4	<p>学校に留学生対応の担当スタッフを置き、在籍管理やビザの更新等や生活のサポートを行っている。</p> <p>また、滋慶学園福岡としても統括するスタッフを置いている。担任と就職担当が、就職や進学御指導を適切に指導・支援を行っている。</p>	<p>学校の担当スタッフは、事務的な手続きの相談が中心で、マインド面でのサポートは担任になっている。</p>	<p>留学生担当スタッフが、担任以外にも定期的に面談を行い。学園全体の留学生サポートの部署とも連携を図っていく。</p> <p>滋慶トータルサポートセンターを留学生にもさらに活用するようにサポートしてゆく。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の相談については、基本的には担任が行うが、担任にも相談できないと考える悩みはSSC（スチューデント・サービス・センター）という部署を設け、その解決にあたっている。留学生に対しては、担当を設け、在籍管理や生活指導を行っている。</p>	<p>SSCは、平成24年度から滋慶学園福岡7校統一で運営し、滋慶トータルサポートセンター福岡として運営を行っている。ここは専用の場所を学校とは別の場所に設け、相談しやすい環境を整えている。また自習スペースもここに設けて、学校の校舎内に入れないような学生が、ここで学習することが出来る環境を整えている。また法にのっとり、必要であれば合理的配慮も行っている。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	4	<p>学生支援機構の奨学金のほか、学園グループ独自の奨学金として、「滋慶奨学金」を用意している、また分納や延納などすべての経済的支援ができるように努めると同時にデータの管理もできている。</p> <p>高等教育の修学支援、新型コロナウイルスによる学生支援緊急給付金も案内している。</p> <p>定期的に、スタッフが学費勉強会を行い、学生サポートにつなげている。</p>	<p>制度そのものの案内は十分にできているが、採用者情報などは特に重要な個人情報のため、データの管理には、十分な注意を要する。</p> <p>また、奨学金や教育ローンの返済が滞る卒業生が若干名あり、支援ができにくい状況である。</p>	<p>卒後の未返還者を少なくする為に、マネープランの研修を行なっている。</p> <p>奨学金対象者のみならず、学年に応じた専門家による研修で、奨学金のみならず、社会人になった時に役立つ内容を行っている。</p> <p>修学支援、コロナ関連の公的支援制度については、都度担当者より情報発信(オフライン、オンライン共に)を行っており、定期的な対面での説明会も実施している。</p>	<p>学費サポート資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネープラン研修配布資料
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 学校医を選任しているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか	4	<p>校医や保健室、健康診断や再検診など、学生の健康管理は十分に配慮しており、学園グループ内の慶生会クリニック、滋慶トータルサポートセンターとの提携を含め、整備は充分と思われる。</p> <p>カウンセラーが常駐するチューデントサービスセンターを設置しており、心身面のサポートを行っている。</p>	<p>環境の整備は充分であるが、学生の中には健康診断の受診や再診に臨まない学生がおり、如何に受診率を上げるかが重要。</p> <p>また、昨今精神的なサポートを求める学生も増加している。</p>	<p>健康管理の重要性を説くとともに、掲示板やホームルームを通じての案内の強化を図ることと、保護者への協力を仰ぐ。</p> <p>精神疾患を持つ学生とは、カウンセラー、担任、また保護者との連携が必須である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・慶生会クリニック案内パンフレット

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	4	<p>グループ企業のジケイスペース(株)により、専用寮を運営・管理しており、学生指導をはじめ、利用状況や充足数などの情報も明確になっている。</p>	<p>学生及び保護者から費用が高額であるとの意見が多く、全室埋まらない寮がある。</p> <p>また、入寮者のニーズ（インターネットの速度）などにも対応していく必要がある。</p>	<p>設備やサポートを含めて、費用以上の価値をもっと伝えていく事が重要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 寮案内冊子 メインパンフレット
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	4	<p>福岡の姉妹校合同でクラブ活動に取り組んでおり、予算管理から引率や大会への参加や年間の成績管理などクラブ活動担当者により行われている。</p> <p>今年度より、部活動が再開され学生が活動できるようになっている。</p> <p>学生からの発案の団体が活発化している。</p>	<p>部活動や、同好会、サークル活動、学友会と活発化して来た分、資金、サポート、安全面などのチェック体制を強化していく必要がある。</p>	<p>定期的に、顧問やスタッフ間でミーティングをおこない、チェックを行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> クラブ活動紹介チラシ メインパンフレット スクールライフ別冊

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>授業や実習だけではなく、学生の生活全般のサポートは重要であり、経済的な支援、生活環境の支援、課外活動支援、そして健康面での支援と全般的に支援体制は整っている。しかしながら、昨年度より発生した、新型コロナウイルスにおける、経済的かつ精神的な影響は大きいと思われる。</p>	<p>日本学生支援機構の奨学金紹介のみならず、学園としての滋慶奨学金を用意している。また、健康面をサポートする慶生会クリニックは、歯科、内科、の2科目の受診は学生の自己負担無料のクリニックであり、またカウンセラーによる支援体制も充実している。経済的なサポートは、個別対応になるため、きめ細やかな対応が必要であるが、その分スタッフの業務も年々複雑になっている。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	4	<p>入学前、1年時、2年時に保護者会・個別面談会を実施しており、学校の情報提供と学生の状況報告と就職への対策等を伝えている。</p> <p>コロナ禍において、面談方法も、保護者の希望に応じて、対面・オンラインと選択することができる。面談記録は、担任が記録をとっており、必要に応じて保護者に連絡、連携をとっている。</p> <p>緊急連絡先は、学籍簿に記載され連絡体制を整えている。</p> <p>学校から保護者へ LINE などに直接届く連絡システムを導入している。</p>	<p>問題や障害がある学生が入学前情報としてその問題点を知らせていただけないケースがほとんどである。入学後の授業態度等から判断することが多い。また入学式後に保護者や本人からの告白のような形で伝えられ、そこから対応を求められることがある。</p>	<p>入学前より連携を取りやすくしているが、現在、学校からの連絡システム(LINEにも届く)の登録を保護者へも促しているが、システムの登録率上げる取り組みも必要。</p> <p>オープンキャンパス来校時の状況の面談時の履歴や、出身高校からの情報等を元に必要と考えられる学生とは連携を図っていく。</p>	保護者へのお知らせ一式

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>保護者から大切なお子様を預かって育てているということを忘れず意識して、保護者への連絡と保護者との連携が重要である。本校では、4つの信頼というコンセプトを掲げているが、「学生・保護者の信頼」として、保護者の信頼を得ることもその1つであり、そのためには適切な連携をとることが重要である。</p>	<p>担任は日頃から学生だけではなく、保護者とも連絡をとるように心がけているが、保護者会、三者面談等も実施し、常に保護者と適切な連携をとることを重要と考えている。また今後は入学前からの連携も必要と考える。このようなことが、退学率の低減に結びついていると考えている。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	3	<p>同窓会を組織し、年に一度、卒業生の動向や業界の情報収集と卒業生サポートのために同窓会総会を開催している。卒後の就職やデビュー活動の支援は行っているが、キャリアアップ講座等は実施していない。</p> <p>デビューサポートに関しては、卒業生へデビューバンクへの登録案内を促し、卒業後のデビュー活動の支援を行っている。</p>	<p>コロナ禍において、会場を設けて行う同窓会が開催できていない事があり、卒業生への支援の一つが出来ていない所がある。</p>	<p>コロナも落ち着いてきたことから、同窓会などを再開し、現状の卒業生の状況を把握するところから始める。</p>	同窓会名簿
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか	2	<p>関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等は特に行っていない。</p>	<p>クリエイティブ業界は、卒業後は現場での経験力を問われるために、業界に向けての再教育は行うことは行っていないが、将来の方向性を変えた卒業生に対しての支援は必要かもしれない。</p>	<p>同窓会組織等を通して、再教育プログラムの必要性を問い、必要であればどのようなスキルが必要かを調査したうえで、姉妹校と連携をとり対応を行っていく。</p>	

<p>5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか</p>	<p>□社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか □社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか □図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか □社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか</p>	<p>3</p>	<p>社会人の入学者に対しての履修に関する取扱いは特に学則等に記していないが、長期履修制度は導入しており、卒業へのサポートは行っている。実習室は、通常は夜間 20 時まで、また休日も開放している。就職に関するサポートは通常学生と同様に、専属のスタッフがサポートしている。</p>	<p>日中働きながら、さらなるスキルアップを目指す学生に対してのカリキュラムの組立てはしていない。本校としては、そのような学生に対する需要があれば、専門授業を用意するなど、対応策を検討せねばならない。</p>	<p>社会人からのニーズが増加する状況になれば、社会人を対象として、夕方からのみの授業カリキュラムなど、社会状況に応じたコースの導入の必要か否かを検討する。</p>	
--	--	----------	---	--	--	--

5-21 (2/2)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の評価は、卒業生が業界で活躍することに直結するため、まずは卒業生の卒業動向をしっかりと管理できる体制が必要である。そのための同窓会組織を作り、年に一回同窓会総会を実施して情報収集や卒業生間の交流を図っている。</p>	<p>企業に就職するだけでなく、デビューを目指す学生・卒業生もいる。卒業生と業界を結びつけるためのサポートとして姉妹校と連携してデビューバンクというインターネットでのサポートを行っている。また、卒業生情報を一元化し、サポートをより拡充するためのシステムを確定する。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>業界が求める人材育成のために、施設、設備は、学生に対して業界同等のものを十分に用意されているし、不足があれば毎年の設備計画の中で充足が計られている。また、設備点検や補修なども、サポート企業と密接に提携した上で、毎年必要に応じた整備がなされており、そのための予算の確保も長期的な計画をたてて問題なく運営されている。</p> <p>また、安全面では外部委託企業による、警備や安全管理を行い強化している。課題としては、校内は多くの入口があり、死角にもなる場所があるので、その安全性をさらに強化する必要がある。</p> <p>学外実習においては、業界が求める人材育成の観点から非常に重要と考えており、実施体制は十分にできている。ただしインターンシップ、海外研修、郊外学習、学内イベント等は現場での大切なキャリア教育の場としても、捉えている、だからこそ現場で指導いただく企業との更なる連携と、成績評価の明確な構築が重要と考える。</p> <p>環境を安全・快適にするためにも、様々な災害を想定した視点で、チェックをしていく必要がある。</p>	<p>今後も施設、設備を常に点検し関連部署と連携して、授業運営、学校生活が快適になるように改善して行く。教員は、講師・学生の声に耳を傾け改善していく事は元より、施設・設備・備品の利用の仕方を学生にも教育的指導を怠らないようにする。</p> <p>教育システムとして、インターンシップを中心とした、学外活動を整備・実施しており、その教育的な効果は確認できているが、更にその取り組みを教科課程の中でどのような位置づけで捉えるかが重要な為、成績評価の基準、目的、方法、単位認定の方法などを、学生便覧に明示していくものとする。</p> <p>また、教育的な効果の確認をしていくうえで、企業との取り組みを更に密にしていき、学生本人の研修ノートにプラスして、どのような効果があったかを図れるアンケートを考え、それで数値化出来るようなシステムをキャリアセンターとともに構築していく。</p> <p>防災に関しては、全学生を対象とした訓練の実施が望ましい為、火災・地震を想定とした訓練を年間数回の開催を行っていく。災害を想定した備蓄のチェックも行う。</p>	<p>学内の設備、特にパソコンは業界での即戦力を目指すうえでは、業界と同様のソフトやシステムからハードが必要で、毎年業界の変化と共に変化が必要。また、学生に対して学内施設の十分な使用機会を与える為に休日も、教室開放を行っている。</p> <p>学園グループの関連企業のジグキス[®]スペース㈱は、学校施設の環境・衛生・点検・補修・改修を担う企業であり、予算を含めて単年から中・長期的な観点で学校のサポートを行っている。</p> <p>校外実習の一つである海外実学研修は、アメリカのロサンゼルスとサンフランシスコ、イタリアのミラノを研修地として用意しているが、22年度もコロナ禍のため実施が見送られたが、オンラインを使用した特別講義を多数開催した。</p> <p>インターンシップは単なる学習効果だけではなく、学生本人が自身のスキルをプレゼンテーションする場となっており、また協力企業においても人材確保の機会として捉えることで、多くの内定が生まれている。</p>

最終更新日付

2023年6月12日

記載責任者

空閑 結子

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか <input type="checkbox"/> 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	4	<p>業界が求める人材を育成する為には、業界同様の機材での実習が望ましく、そのために必要なパソコンや使用ソフトを中心とした設備の充実が常行っている。</p> <p>図書に関しては必要に応じて、実習室での充足を行っている。</p> <p>学生の休憩場所や食事室も学生レストランを含め充実していて、改装により充実させた。</p> <p>学校の施設のバリアフリー化はエントランス・トイレなど整備できており、衛生管理・設備の点検補修は外部業者への委託を含め徹底して行なわれており、この点検を基に事業計画で改装、改修の計画を立てる。</p>	<p>学生数の増加による、教室の稼働率が上がり、通常授業の時間帯での自習の場を確保するのが困難になりつつある。</p> <p>改修により、学生の休憩場所の拡充はできたが、まだ不足している。</p> <p>緊急で施設・設備の故障や改修なども、発生することがあり、そのための予算確保が重要。</p> <p>バリアフリーに関しては、校舎内全ての環境では整えられていないので、障害者差別解消法の施行もあり、その必要性に対する改善が必要である。</p>	<p>実習教室の不足は、日曜・祝日の実習室開放の設定をもうけることで、引き続き問題の改善に努めていく。</p> <p>校舎のスペースはかぎられているので、少しでも快適になるよう、リニューアルを行っていく。</p> <p>設備は常に予算を考慮した上での最善の計画を立てることが重要であり、特に施設の改修等は長期的な視野で計画を立てながら行って行く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書 ・学校パンフレット（設備記載）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設、設備は、学生に応じて十分に用意されている。不足や新しい必要機材やソフト等があれば毎年の設備計画の中で充足が計られている。また、設備点検や補修なども、サポート企業と密接に提携した上で、毎年必要に応じた整備がなされており、そのための予算の確保も長期的な計画をたてて問題なく運営されている。	学園グループの関連企業のジグスペース㈱は、学校施設の環境・衛生・点検・補修・改修を担う企業であり、予算を含めて単年から中・長期的な観点で学校のサポートを行っている。また同じ㈱ビスターーツは PC 環境メンテナンスにおいて常に学校と共に整備を行っており、学生の学習環境を支えている。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか	3	<p>教育コンセプトの産学連携教育のもとで、現場の企業人から学べる、学外実習は技術の修得と共にキャリア教育の重要な場として目標を明確に取り組んでいる。</p> <p>インターンシップ終了後、海外研修終了後、研修を通じて経験した事、学んだ事を確認できるように、研修ノート提出する事で、学生本人も学校も確認できるようにしている。</p> <p>また多くの校内行事には、運営のスタッフとして学生が参加しており、これも重要なキャリア教育の場と位置づけており、卒業生、企業、保護者への発表の場でもあり、案内も行っている。</p>	<p>提携しているインターン先といった制度が無い為、情報を与えられても学生の頑張り次第の所がある。連携先がない状況。</p> <p>研修ノートで教育効果の成果は確認できているが、数値化できていない。</p> <p>卒業生への、行事の案内ができていない。</p>	<p>学外実習の評価は、学外で指導いただく企業評価を成績に反映していく為に、今以上に企業との連携を密にすることが重要。</p> <p>学生本人の研修ノートにプラスして、どのような効果があったかを図れるアンケートなどで、数値化する。</p> <p>卒業生向けの、サイトサイトなどを作成し、卒業生への学校情報を発信。</p>	<p>サクセスブック 海外研修資料 業界研修ノート</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学外実習、インターンシップは企業連携のもと、様々な業界に体制をひいて実際に多くの学生が実習を行っている。また研修後の教育効果の確認も出来ている。そこから就職に結びつくケースもあり、今後も拡充に努めていく。	インターンシップは地元企業のみならず、滋慶学園の全国ネットワークを活かし、東京や関西など様々な地域の企業にご協力を頂いている。学生本人が自身のスキルをプレゼンテーションする場となっており、また協力企業においても人材確保の機会として捉えることで、多くの内定が生まれている。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災（消防）訓練を定期的実施し、記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか	4	<p>組織などの構築を含め、体制は整備されている。防災の管理責任者を選出し、責任者のもとで、訓練の実施を行っており、防災マニュアルも学生、教職員、講師に配布し携帯するようにしている。</p> <p>法令に基づき、設備点検だけでなく、防災訓練、教育を実施している。</p> <p>防災の内容により、オリエンテーションやクラス単位で実施している。</p>	<p>同校舎内に、姉妹校があるため、一斉に全員が訓練を行うことが難しい。</p> <p>22年度は、コロナ禍もあって、大規模な訓練が出来ていなかった。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いてきたので、同じ校舎を共用している姉妹校と連携を図り、火災・地震・津波発生時の災訓を実施できるように計画を行っていく。</p>	<p>防災訓練実施要項 生活安全委員会議事録 防災マニュアルブック</p>
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか	4	<p>安全・防犯教育も関係各所に依頼してオリエンテーションに合わせて実施している。</p> <p>警備員が常駐し、学内警備を行っており、夜間も警備システムが作動して万々に状況に備えている。</p>	<p>学生は、学校内での危険以外にも、通学途中での危険も含め、生活先般の指導してく必要がある。</p>	<p>校内だけでなく、通学途中での防犯も含めて、安全対策教育を今以上に行い、自分で身を守る意識も植え付けていく。その一つとして、映像を使った学習を、オリエンテーションやHRで行っていく。</p>	<p>防災訓練実施要項 生活安全講習実施要項</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	<input type="checkbox"/> 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか		<p>基本的に危険物は、学校では扱っていない。</p> <p>校外学習の際は、都度実施計画を作成し、安全管理体制を整えている。</p> <p>常備薬においては、教職員管理の元、学生が自由に扱えないようにしている。</p>	危険物はないが、取り扱う事が今後あったら、対策を実施しなければならない。	今後、危険物を扱う事があれば、取り扱いマニュアルを、機器を使用する前には必ず目を通すように徹底し、そのことを文面にして機器前に掲示しておく。	常備薬リスト

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
常に、災害が起こりうる事を想定して、起きた場合の対策として、訓練の実施とスタッフの体制をしいている。災害訓練だけでなく、心肺蘇生等の訓練も毎年行っている。また事故が起きた場合の保険等の処置もできている。	防災訓練は学内で行うだけでなく、福岡市と連携し近隣のコンベンションセンターでの実施や、関係機関からの特別講習も行い、行動のみならず、心構えの面でも多くの対策を実施している。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>募集活動においては、配布資料からイベント内容まで、コンプライアンスに配慮した上で、適切で効果的なものとなっている。</p> <p>数年続いた新型コロナウイルスにより、対面での広報活動が困難となったが、徐々に対面でのイベントとオンラインでのハイブリット広報を実施し、高校生の将来の自己発見を妨げることなく、実施することができた。</p> <p>入学の選考においては、学力審査ではなく、作文と面接による目的意識の確認によって合否の判定を行なうことで、入学前の能力ではなく、将来の職業に向けての意欲ある学生を求める内容となっているとともに、本人の志向や資質を計ることができるものであり、入学後の授業編成にも、活かされているものとなっている。ただ学力審査の点数による、合否の判断ではないので、明確な選考基準として明記できていないことが課題として挙げられる。</p> <p>学納金に関しては、最適な授業運営から、学校経営を行なう上での、最適な金額を設定。学費サポートなどについても、早期に来校者へ案内している。また入学辞退者への返金の規定を含め、3年間・4年間の学納金は、入学前の時点で明記されており、経済的な支援も用意されている。</p> <p>2023年度は、早期広報が功を奏し、昨年同様定員数を充足することができた。</p>	<p>高等学校に対して、専門学校を理解をより深めていただく為に、業界で活躍する卒業生情報の充実、さらに内定・デビュー情報を共有することで、本学園の教育効果を伝えていく。</p> <p>専修学校各種学校協会との関係を密に保ち、コンプライアンス委員会などの指導を受けながら誇大広告にならないように注意する。</p> <p>高校1年次、2年次の早い段階より、職業の魅力、仕事の楽しさを伝え、入学希望者の夢実現をするための長期計画のサポートが入学前からできるよう、校内で開催される進路ガイダンス、会場ガイダンスなどに積極的に参加する。</p> <p>商品（学科・コース）の変化に伴い、ターゲットとなる入学希望者も異なってくるため、しっかりと業界リサーチ、マーケティングを行い、商品・教育のイノベーションを行う。</p> <p>入学選考においては、学力審査ではなく目的意識の高さが合否の判定であることを明記し、オープンキャンパス等でも周知徹底する。</p> <p>新型コロナウイルス対策も緩和されてきたため、対面でのイベントを強化していく。しかしながら、オンライン環境でのコミュニケーションが一般化しているため、オンラインでの対応も引き続き行っていく。また、経済的な状況が急変した学生に対しての学費サポートや、修学支援制度なども積極的に案内する。</p>	<p>今年度も、6月中旬に高等学校先生説明会を実施予定。また、進路決定の大きな要因となる保護者への理解を深めることが必須であり、保護者向けのイベントの拡充も必須と思われる。</p> <p>出願方法は、AO 入学、指定校推薦、高等学校推薦、一般入学、社会人入学の5種類を用意し、合否の判定は書類選考を通しての作文による目的意識の審査と面接試験による目的意識の審査を行っている。学力審査以上に職業意識を今後持てるかどうか、合否において重要と捉えている</p> <p>入学の時点で、卒業までに必要な学納金はすべて明示しており、入学後に別途請求がないように心がけている。また奨学金と教育ローンから分納案内まで案内する事で、出来るだけ計画的な納入のお手伝いが出来るように心がけている。</p> <p>また、奨学金、修学支援新制度の貸与率も非常に高いため、早い段階より専門教員による説明会実施が必要。</p> <p>4年制希望者が増えていることを鑑み、2024年度募集より、4年制、3年制の定員数を変更。さらに、質の高い教育内容にしていく必要があるとともに、分かりやすい商品内容、また顧客が求める教育内容、安心・安全の学生生活を教務と連携し、しっかりと伝えていく必要がある。</p>

最終更新日付

2023年6月12日

記載責任者

花野 恭子

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	4	<p>幅広い地域での、進学説明会を実施。</p> <p>昨年度に続き、対面で高等学校の教員を招いた学校説明会（滋慶福岡合同）を開催する。また対面・オンラインでの保護者向けの学校案内企画も更に強化していく。</p>	<p>好きなことを仕事にした卒業生実績、また充実した学校生活を送っている在校生の情報を届けることが重要だと考えられる。その為には、実績を出すことが、最も重要だと考えられる。</p>	<p>姉妹校と合同で福岡県内の高校からの進学を強化するため、高校訪問を実施予定。進路指導部だけでなく、対象となる学科担当の教員などへの訪問を行い、在校生情報などを丁寧に報告する予定である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校訪問記録 ・学校案内 ・保護者配布資料 ・体験授業配布資料 ・入学者パネル
7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	4	<p>福岡県の専修学校各種学校協会の規制に則り、願書の受付時期などの募集活動は適切に行なわれている。また入学相談をはじめ、様々な相談は、対面や電話またインターネット、SNSを通して応じる事ができている。</p> <p>また学習成果・就職成果、や教育活動など様々な情報をインターネットや配布物で提供できており、情報管理も十分にできている。</p>	<p>協会の規定については、常に関心を持ち、規則に沿って活動を行なうことが重要である。また募集活動において誇大広告にならないように注意を要している。</p> <p>学校情報については、HPやSNSともに、適宜に情報のアップデートを行い、最新の状態にしている。今後も、オンライン、対面とハイブリット広報を継続して行っていく。</p>	<p>協会で決定された事項、変更になった情報を姉妹校とともに共有し、漏れがないようにしている。</p> <p>業務システム、ガルーンなどを活用し、自校の情報だけではなく、姉妹校と高校関連の情報を共有できるようになっている。</p> <p>年々、4年制専攻への希望者が増えていることより、4年制専攻の拡充を図るため、定員数を増やした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項 ・数字資料（ASシステム印刷資料） ・体験授業配布資料 ・業務システム

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか	4	日曜、祝日や長期休み等には、体験授業、学校説明会に取り組み、オンライン広報も強化した。また、数多くの選考機会を用意しており、選考方法も 5 種類の選考方法を用意している。	来校者の目指す分野に応じた体験授業、業界特別セミナーを用意することで、将来の職業観を持ってもらうことが重要である。高校現場の進路指導状況やスケジュールを把握して、イベント企画を実施する必要あり。	業界で活躍する講師、東京・海外からの特別ゲストもお招きし、最先端の情報を提供し、職業観を発見する機会としている。昨年度に引き続き、対面&オンラインでのハイブリッド広報も継続している。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験授業配布資料 ・DM ・募集要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
募集活動においては、コンプライアンスに配慮した上で、情報提供から、オープンキャンパス・説明会・体験授業などのイベントを用意している。また配布資料も授業内容や学習成果、卒業生実績から学生生活なども、対象に応じた資料提供となっており、工夫を凝らした上で、興味を引く効果的な内容となっている。	出願方法は、AO 入学、指定校推薦、高等学校推薦、一般入学、社会人入学の 5 種類を用意。また、できるだけ多くの体験入学の機会をふやすことで、業界のことをより良く理解していただくことが、入学後の学習意欲につながると考える。学費の相談も多いため、教育ローン・奨学金・修学支援新制度の情報提供も積極的に行った。

最終更新日付	2023 年 6 月 12 日	記載責任者	花野 恭子
--------	-----------------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	4	選考の方法は募集要項に明記しており、合否判定基準は各専攻担当教員による、将来の職業意識の有無を判定基準とするが、担当者裁量を越える受験者は局長判断の体制を引いている。	学力審査の点数による、合否の判断ではないので、明確な選考基準として明記できていないことが課題として挙げられる。	合否判定の基準を再度検証し、規定を設け募集要項に明記していく事とする。 また、今後行われる高大接続改革に伴い、入試改革に応じた表記変更も合わせて行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> 募集要項 願書処理の流れ(マニュアル資料)
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	4	毎年作成している事業計画書は次年度から5年後までの入学者予測を基に、収支予算の計画から、専攻ごとの教育計画を立てるなど、入学者見込み数は非常に重要な数値となっている。そのために、広報では、毎週の会議の中で資料請求から入学者までのすべての数字を分析し予測数値を割り出し、目標入学者の確保の為の対策を計画している。	入学者の傾向を把握する事は、次年度の授業運営の計画を立てる際に重要な要素となる。そこで、入学選考の作文で、将来の目標を知る事や、面接試験での目的意識や意欲の有無の情報を入学後の学生対応に活かしていくようにする事が重要。昨今、入学後プログラム系の授業に躓いている学生も増えている。	入学選考のひとつである作文の内容は、合否の判断と共に、入学後のクラス運営の資料とする。ダブルメジャーカリキュラムシステムに関心を持つ受験者が多く、入学後、ひとり一人のゴール設定に活用できる。 入学後の学びの不安を緩和するために、今年度よりプレスクールを充実させ、入学前教育を教務と連携して実施していく予定。	<ul style="list-style-type: none"> 過去の専攻別出願者、入学者データ印刷資料。 業務システム画面印刷資料 事業計画書(収支予算書)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学選考に関しては、募集要項に日時・選考方法など明示されており、その情報どおりに、開催しており問題はなしと考える。また、合格者や辞退者などの数字の読み込みや、入学者の資質の把握は次年度学校運営に大切な数字と捉えて、運営に活かしている。</p>	<p>入学選考は、書類選考を通しての作文による目的意識の審査と面接試験による目的意識の審査を行っている。学力審査以上に職業意識を今後もてるかどうか、可否において重要と捉えている 留學生の入学者はコロナの影響を受け、減少している。しかし、入学目標 280 名に対して、289 名の入学者を確保することができた。</p>

最終更新日付	2023 年 6 月 12 日	記載責任者	花野 恭子
--------	-----------------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	4	現下の経済状況や他校水準を参考に、運営上、適正な金額を定め本部決済を経て決定しており、募集要項には、3年間・4年間の学納金のすべてを明示している。	現下の情勢を常に意識し、運営上の無駄をできるだけ省いて学納金に反映できる事が望ましい。	職員全員で運営上の無駄を省く努力をしていく、特に光熱費削減など学園グループ全体で取り組んでいる。	・募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<input type="checkbox"/> 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	4	最高裁判例に基づいての対応を募集要項に明記し、入学金、選考料の返還はないが、他学費は3月31日までであれば返還している。	全職員があいまいな対応にならないように、判例に沿って、適切に処理することが重要	職員すべてが共通認識を持って対応できるように勉強会開催。 学費担当、教務部長、事務局長が常に情報交換をし、不具合が生じた場合、敏速に対応し、新しくルール化する体制が整っている。	・募集要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金は適正な金額と考えているが、毎年検証を重ね、支出の無駄も徹底的に削除できるように努力している。また学費や入学金などの返還は法令や判例に沿って、適切に処理されるべきものとして、募集要項に明示している。	入学の時点で、卒業までに必要な学納金はすべて明示しており、入学後に別途請求がないように心がけている。また奨学金と教育ローンから分納案内まで案内する事で、出来るだけ計画的な納入のお手伝い出来るように心がけている。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>毎年 5 か年の事業計画を策定し、中長期の視点で予算を立てている。</p> <p>また収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。</p> <p>学園本部の機能として二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができるような仕組みになっている。</p> <p>また、監査は私立学校法上義務付けられている「監事監査」のほか、「公認会計士による監査」も受けている。</p> <p>さらに、私立学校法に基づいた財務情報公開の体制を、平成 17 年 4 月からとっている。</p> <p>※当校における情報開示の申請は、現状ではない。</p>	<p>健全な学校運営を行うため、5 か年の事業計画、収支予算は有効かつ重要な手段と考える。しかし近年は環境の変化が激しく、正確な予算作成が難しくなっている一面もある。</p> <p>責任者のみならず全ての教職員への周知徹底が必要不可欠である。</p> <p>教職員に対するさらなる研修、勉強会について検討し、進めていく必要がある。</p>	<p>当法人の財務情報公開に関しては、下記の通りとなっている。</p> <p><組織体制></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法人統括責任者 2. 学校統括責任者 3. 学校事務担当者 <p><公開資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 財産目録 2. 貸借対照表 3. 収支計算書 4. 事業報告書 5. 監査報告書 <p><閲覧場所></p> <p>法人本部</p>

最終更新日付	2023 年 6 月 12 日	記載責任者	花野 恭子
--------	-----------------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	4	<p>毎年事業計画書を作成し、5か年の収支予算を立てている。</p> <p>その中で入学者数、在校生数、退学者等を勘案して学費明細を作成し、収入予算の推移を把握している。</p> <p>また新学科構想、設備について計画し、支出予算を作成している。</p> <p>借入金等長期資金の計画については、都道府県の基準の範囲内で計画・実行している。</p> <p>これらは理事会・評議員会にて承認、報告がなされている。</p>	<p>ここ数年、学生募集が好調であり、定員充足率は安定して100%を超えている。</p> <p>それに伴い、新規機材購入費の増加となっており、減価償却費の増加となっている。キャッシュフロー、資金収支の視点を、学校運営関係者全員で共有、改善していく必要がある。</p>	<p>研修、勉強会等を充実させる必要があると考える。</p> <p>また、新しいシステム導入による、教室環境、および機材のDX化(クラウド上での管理など)による固定資産の軽減も含め検討していく。</p>	
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近3年間の収支状況(消費収支・資金収支)による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	4	<p>キャッシュフローに基づいた学校運営を重視しており、経費予算のみでなく施設設備支出、借入金返済等を考慮した資金収支の予算も作成している。</p> <p>数値は3か月ごとに見直している。</p>	<p>評価及び見直しについて、数値の基準等明確化されていない。</p>	<p>分かりやすい基準等の策定が必要と考える。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<input type="checkbox"/> 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率の数值は適切な数值になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか	4	算定し、学園本部によるチェックがあり適正な予算管理がされている。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
将来の安定した財務基盤が保てるよう、毎年5か年の予算を組んでいる。これにより中長期の視点で、予算を管理することができている。	キャッシュフローを重視した運営をしている。 また、単年度の予算を綿密に作成している。 定員充足率は100%を超え、引き続き安定した経営ができている。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	4	<p>予算編成は、事業計画作成の際の教育目標、や実行計画などと同時に策定しており、すべてが整合性を持って制作し、本部承認を得ている。</p>	<p>中期的な将来学生数の見込み数予測が大切であり、教育・就職・広報などの関連部署との調整を持った編成が必要。</p>	<p>予算の編成会議を持って学校予算を立てていくこととする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書 ・予算管理システム
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理を行っているか	4	<p>予算は、事業計画の時点で、部署毎の予算から、予算項目別に細かく分類し、執行に関しても全て、局長承認や金額によっては、本部承認を得る流れとなっている。また消化金額は毎月の学内チェックと、サポート企業による3ヶ月ごとの修正と評価を受ける。</p>	<p>予算の執行及び管理は問題なく行なわれている。入学希望者の増減に伴い、必要な機材、設備を整備する必要がある。今年度は、e-sportsの入学者が増えたため、教室改修、ネット回線、新規PC・機材などの購入を実施した。</p>	<p>不測の事態に備え、ある程度余裕を持った予算計画が必要となる。逆に、支出が減少した項目について、しっかりと精査し、極端な予算執行状況にならないよう、他の項目とのバランスを見ながら全体としての調整が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師料消化予定表 ・予算承認伝票 ・予算確認書 ・予算管理システム

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>予算の編成は、中・長期収入に応じたバランスで編成しており、整合性が図られている、また執行においても、執行の規定を設けており、適正な執行がなされており、予算項目ごとに予算が決められ、その項目予算が超過できない仕組みになっており、適切なチェック体制も整っている。</p>	<p>予算執行において、1万円以上の執行と日当が支給される出張はすべて、局長の承認が必要。また、50万円以上の執行は更に運営部長承認が必要となっており、計画の時点で承認を得る事が必要となっている。予算項目ごとに予算が決まっており、その枠内での承認しか認められない仕組みとなっている。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	4	学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。	適正な計算書類の作成は法人等の責任であり、それによって監査も効率的に行うことができると思う。	さらに効率的かつ有効的な経理処理システムを構築していかなければならない。 また法改正等に対応できる人材育成が必要。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えます。</p> <p>監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。</p>	<p>私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。また、今年度は監事監査を実施し、第三者から見える問題点の可視化、業務改善の場となった。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	4	私立学校法に基づく財務情報公開体制が整備されている。また職業実践専門課程における財務の情報公開に基づいて適切に公開している	学校統括責任者のみならず、全ての教職員への周知徹底が必要不可欠である。	教職員に対するさらなる研修が必要と考えている。	学校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報公開の体制整備はできている。 学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。 今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。 また、認定を受けた職業実践専門課程の財務情報公開を適切に行っている。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令遵守については、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断し、また学校運営（学科運営）が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしている。</p> <p>①学校法人調査②自己点検・自己評価③学校基礎調査 ④専修学校各種学校調査 ⑤学校施設認定規則に基づく報告等である。</p> <p>また、個人情報保護の観点から個人情報保護委員会を設置し、対策をとっている。教職員には教育と研修を通じて周知徹底できている。学内のネットワークに関しては、情報の漏洩が生じないように、アクセス権の設定やグループ内サポート企業のみでの使用措置をとっている。</p> <p>法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。さらに、学校評価に関しては、「職業実践専門課程」の認定に際し、学校関係者評価委員会の設置がなされており、適切に評価を受け、また適切に情報公開もなされている。</p>	<p>基本的な体制作りはできたが、学内にコンプライアンス相談窓口が必要となる為、今後の課題は窓口の早期設置であると考えている。</p> <p>また、個人情報の取り扱いについては、法人間でも最重要事項と捉えられており、スタッフ一人一人の認識を高めていくため、年間を通して複数回の研修が必要だと考える。</p>	<p>法令や専修学校設置基準の遵守に対する方針は、文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りを整備している。</p> <p>教職員へは、法令や設置基準の遵守に関する教育または研修を実施し、周知徹底を図っており、今後も継続して行う。</p> <p>本校は、一般社団法人 日本プライバシー認証機構「TRUST-e」の国際規定の認証を受けている。また、職業実践専門課程の規定ならびに滋慶学園の情報公開規定に則り、公開していき、情報公開の方法は、ホームページへの掲載を通じて広く社会に公開できている。</p>

最終更新日付

2023年6月12日

記載責任者

花野 恭子

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	4	<p>学内にコンプライアンス委員会を設置し、確実な実践の推進にあたっており、行動規範・コンプライアンス規定作成、抵触事案への対応等々を行う</p> <p>ハラスメント等防止の為、学生相談窓口(JTSC)、および教職員相談窓口(EAP)を設置している。</p> <p>コンプライアンス委員会が周知徹底のPR、啓蒙文書作成・配布を行う。学生便覧には毎年教育基本法・学校教育法等を記載し、常に意識を高めるように工夫している。</p>	<p>定期的な監事監査で、コンプライアンスの実施状況についても監査を行っているが、グループ内での監事監査の為、形式的になり得ることが考えられる。</p> <p>JTSC、EAPとは別に、コンプライアンス相談窓口の設置が必要である。</p>	<p>常任監査室の設置</p> <p>コンプライアンス相談窓口の設置。</p>	<p>学生便覧 コンプライアンス規定 広告倫理委員会組織図 情報公開規定</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>「3つの教育理念」で「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことの実現を目指し、「4つの信頼」を獲得するためにもコンプライアンス推進を図っている。すべての法令を遵守すると共に、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが重要な社会的使命と認識し、実践する。</p>	<p>法令や専修学校設置基準の遵守に対する方針は、文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りを整備している。</p> <p>教職員へは、法令や設置基準の遵守に関する教育または研修を実施し、周知徹底を図っており、今後も継続して行う。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	4	<p>外部企業との協力関係を保ち、個人情報の取り扱いやネットワーク情報に関しては、内部からのアクセス権限の制約から漏洩防止の対策を講じている。</p> <p>また学生便覧や教育指導要領で学生および、教職員に徹底に加え、朝礼などの時間を通じ、研修を行うことも実施</p> <p>年に1回全スタッフ、講師、学生に対して、ITリテラシーテストを実施。結果は責任者に到達がある。</p>	<p>パソコンを通じたネットワークでの情報とは別に、書類などによる、個人情報の管理は、人の行動によるところが大きい為、教職員への教育は行なっているが、充分すぎるということはない。</p> <p>また、個人情報は自宅等では取り扱い禁止のため、学校外からはアクセス不可となっている。</p>	<p>学内の個人情報保護委員より、徹底した啓発活動（朝礼・会議）を行なう。</p> <p>専攻によっては、ITリテラシーをより強化するための教育内容が必要とされる。</p> <p>今後、働き方も変化していく上で、個人情報の取り扱いの際の機器、ソフト（アプリも含む）、SNS、ネット環境などの整備が急務であると考ええる。</p>	<p>学生便覧 個人情報保護台帳 学校 HP での認証ページ</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>個人情報保護委員会を設置し、対策をとっている。教職員には教育と研修を通じて周知徹底できている。学内のネットワークに関しては、情報の漏洩が生じないように、アクセス権の設定やグループ内サポート企業のみでの使用措置をとっている。</p>	<p>本校は、一般社団法人 日本プライバシー認証機構「TRUST-e」の国際規定の認証を受けている。</p> <p>全スタッフは CPA を受講しており、管理監督者である事務局長は CPO を受講している。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に係る組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	4	毎年、組織において自己評価を実施している。そのための組織体制を整えて、全学で取組んでいる。また次年度に向けて改善に取り組んでいる。	今後の、職業実践専門課程の認定の維持向上のため、整備された組織の基で、毎年度評価を行なって改善を行なっていく上で、適切な規定の整備。	本部を中心とした勉強会を通して、組織規定を整備したうえで適切に評価を行ない、学校改善を行なう。	自己点検・自己評価報告書
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	今後、自己評価終了後学校関係者評価委員会での公表と意見を持って、評価結果を公表している	学校関係者評価委員会での評価終了後、即座に公表できるように、ホームページへアップしている。	学校関係者評価委員会での評価終了後、即座に公表できるように、ホームページへアップしている。	ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に際して組織体制を整備し、実施しているか <input type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	4	学校関係者評価委員会を設置し、外部委員を含め体制の構築がなされている。	評価委員の選出及び認定において、学校関係者評価による学校改善の趣旨を理解していただく事が重要	評価委員の選出及び認定において、学校関係者評価による学校改善の趣旨を理解していただく事が重要	委員会名簿 就任承諾書 委嘱状 学校評価規定

9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	ホームページを通じて適切に公開している	評価委員会からの評価に時間がかかる場合がある。評価終了後、即座に公表できるようにする。	評価委員への協力体制の強化。評価委員への出席率向上のための取り組みを実施。(電話等で直接お願い、早期にスケジュールを伝達)。	ホームページ情報公開規定
--------------------------	--	---	---------------------	---	--	--------------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校関係者評価委員会を設置し適切に運用し、外部からの評価を受け、内容の公開もできている	職業実践専門課程の認定を受け、今後さらに自己点検・自己評価から学校関係者評価まで、適切に行なっていく

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開するための方法で公開しているか	4	ホームページを中心に学校の概要、目的、教育成果だけでなく、より詳しい教科内容まで公開している	より広く教育課程を伝えて行くために、ホームページ上にカリキュラムの概要は掲載しているが、具体的なシラバスおよびカリキュラムの公開までを目指す。	専攻ごとのカリキュラム、シラバスの公開をホームページで行なっていく。	ホームページ情報公開規定、

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業実践専門課程の認定に際し、教育情報は細かく情報公開されている。	職業実践専門課程の規定ならびに滋慶学園の情報公開規定に則り、公開していき、情報公開の方法は、ホームページへの掲載を通じて広く社会に公開できている。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	花野 恭子
--------	------------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>滋慶学園グループの『職業人教育を通して社会に貢献する』というミッションのもと、本校が行うあらゆる活動は常に社会に貢献することを念頭に置く。</p> <p>グループでは真の役割を果たすために、『4つの信頼』を掲げるが、まさにここに挙がる各方面からの信頼を得ることが、社会貢献に直結すると考えており、運営に当たっている。</p> <p>また、建学の理念のひとつである、国際教育は、グローバル人材の育成と共に、国際交流、留学生育成をおこなうことでの社会貢献にも力を入れており、今後は、留学生数や海外研修参加者など育成人材の拡充に努めていく事も重要。</p> <p>地域貢献として、学生による高校生へのリテラシー講座を開催したり、学生自身からボランティア活動を行う意識が芽生え、地域貢献の一步を踏み出しているが、まだまだ、全体的な活動になっていない。</p>	<p>社会貢献における本校の課題としては、更に充実した実績数を増加させていきたいと考えており、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校支援対象校の増加 ・ 地域貢献事業の推進 ・ 留学生数の増加 ・ 海外実学研修参加者の増加 ・ ボランティア活動数の増加 <p>といった数値の増加を図るとともに、ボランティア活動を正しく評価する規定(単位数など)を確立させる。</p>	<p>－4つの信頼－</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③産業界からの信頼 ④地域からの信頼 <p>－企業プロジェクト－ 実在する企業から商品化を前提とした課題（プロジェクト）を頂き、プロと同じ工程を授業の中で経験。</p> <p>業界が求める即戦力を身に付ける、活きた授業。 株式会社明治様、キャノン株式会社様、株式会社セガ様などのナショナル企業の他、地元福岡の企業様、放送局とも多岐にわたるプロジェクトに参加。</p> <p>－総合学習－ キャリア教育が重要視される中、高等学校をはじめ、中学校・小学校からの協力依頼も年々増加傾向にある。学内での実施が多い中、現場に行って実施することが増えた。</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取り組んでいるか	4	<p>本校の建学の理念の目的は、①業界の信頼②高校の信頼③学生とご父母の信頼④地域の方の信頼であり、この考えは学生便覧をはじめ、配布物に明記している。この考えに沿って、高校に向けた授業開催や、行政からの依頼や、企業からの依頼で、「企業プロジェクト」として行っている。</p> <p>「企業プロジェクト」は、教育のコンセプトである産学連携教育を通して、企業が求める作品を企業の指導を受けながら制作提案するカリキュラムでありまさしく、即戦力育成プログラムとなっている。</p> <p>地域貢献に関しては、高校からの依頼で、「SNS リテラシー講座」や、高校生のスポーツ大会や高校のプロモーションの取り組みや、地域の文化活動に参加、福岡の自転車マナーのキャンペーンに取り組んだりしている。</p> <p>また、学友会活動で学校近隣の清掃などを行い貢献している。</p>	<p>学校施設・設備等を学校施設・設備等を卒業生が希望する場合、開放しているが地域・関連業界等に関しては、十分に開放できていない。</p> <p>地域の方々の信頼を得るためには、何より学生の育成が最も重要であるため、キャリア教育の推進を更に進めていくことが重要。</p>	<p>地域の方々の信頼を得るために、地域に根付いたイベントへの協力、低学年（小中学生）に向けた、キャリア教育の一環であるイベントや実践授業の提案などを行う。</p> <p>学友会活動において、学生発信の、貢献活動を育てていく。</p> <p>地域からのクレームに呈して、敏速に対応することが最も大切だと考え、姉妹校と共に、学校周辺の見回りなどを強化している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生便覧 ・プロジェクト 300

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流 に取り組んでいる か	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 海外教育機関との人事交流、研修の実施など、国際水準の教育力の確保に向け取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	3	<p>建学の理念である国際教育の一環として、海外の提携教育機関との間で、相互の学生研修や職員の人事交流を行うなどグローバル人材の育成に取り組んでいる。</p> <p>また、COMグループでは、JIKEI 国際交流 COM という、留学生の募集から教育課程の編成支援や留学生生活相談までを行う組織を持ち、海外での留学生募集活動や日本語学校訪問を通しての、留学生の受け入れにも力を入れている。</p> <p>新型コロナの影響化、海外研修の実施中止となっているが、海外研修では、海外の提携教育機関での研修や特別講義を行っている。</p>	<p>新型コロナの影響もあり、海外実学研修の停止してしまい、リアルな国際交流が実施できていない。</p>	<p>海外実学研修は、23年度から再開される。</p> <p>学生への研修の目的・意義を伝え多くの学生が交流を図れるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・滋慶学園グループパンフレット ・留学生募集要項 ・海外実学研修案内 ・留学生向けホームページ印刷資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学園の「職業人教育を通して社会に貢献する」というミッションの基で、十分な社会貢献、地域貢献、また国際交流は成されている。</p>	<p>産学連携教育の一環で取り組む「企業プロジェクト」は一つの社会貢献となっている。海外実学研修は、アメリカのロサンゼルス、イタリアのミラノの海外提携している企業や教育機関にて約1週間の教育プログラムで国際教育の一環で国際交流を図る。（22年度は中止）</p>

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	3	ボランティア活動は、積極的な支援・奨励を実施している。 学生がボランティアに組みたいという思いを行動に移せるよう学生組織を設立。学生のアイデアを形にするサポートを行っている。	まだまだ、実績が少ない。 まだ、一部の学生しか活動できていない。	地域社会に貢献するための企画を学校と学生と一緒に考え取り組んで行き、情報発信を活発に行い、輪を広げていく。	・ホワイトハッカー専攻『SNSリテラシー講座』資料 ・がくちかProject計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生のボランティア活動を、人間教育さらにはキャリア教育として高い位置づけとしながらも、まだ、社会的に十分と言えるものではない状況である。職業人教育の中にボランティア精神もセットにした、学校教育にしていくことがミッションになっている。	企業から課題をいただき、クリエイティブ業界で活躍する力を養う「企業プロジェクト」も、内容により、ボランティア的要素を含む社会貢献である。

最終更新日付	2023年6月12日	記載責任者	空閑 結子
--------	------------	-------	-------

2022 年度重点目標達成についての自己評価

2022 年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p><教務></p> <ol style="list-style-type: none"> DO3%台(全体)にするために、担任の意識改革、DXを活かしたトータルのサポート体制を確立する。 学生満足度を上げるため、業界と情報交換を強化することで最新のカリキュラムを提供する事と、学習者像を意識した魅力ある授業運営を確立する。 安心安全に学校生活を送ることができるよう、環境整備・イベントを整える。 <p><広報></p> <ol style="list-style-type: none"> 定員充足 100%募集 (280 名) ※2024 年度募集より、4 年制定員→160 名、3 年制定員→120 名に変更予定 早期化する高校生の進路活動に合わせて、広報戦略も変更。さらなる WEB 広報の強化を図る 4 年制強化 (データサイエンティスト、ゲームグラフィック)、ニーズに合わせた新専攻 (ネット動画専攻 (3 年制)) 開発 <p><就職・デビュー></p> <ol style="list-style-type: none"> 就職活動全般をキャリア教育の一環として有効に活用し、就労意識向上を図りながら就職対象率 80%を達成 多様化する採用活動や業界の変化に合わせた、ソフト・ハード面の柔軟な対策と今後に向けたノウハウの集約・蓄積強化 在校中デビューを目指し、SNS・Web 等で主体的なデビュー活動に取り組める学生を育成する為、講師間の連携を強化し、セルフプロデュース力と発信力を実践させる。 <p><全体></p> <ol style="list-style-type: none"> 安定経営の継続 (予算を遵守) スタッフの DX 化推進、および業界の変化を知るため、また滋慶マインドを浸透するための勉強会開催 一人ひとりをもっと大切にするスタッフ、組織 SDGs に向けた、新規取り組み 	<p><教務></p> <ol style="list-style-type: none"> 残念ながら、DO3%台にすることが出来なかった。抱えている問題は見えているのだが、効果的な手段を講じられなかった。 カリキュラムの充実を図るために、企業訪問やセミナーにスタッフが参加し、最新の情報を積極的に仕入れている。また、海外や姉妹校と連携した継続的なグローバルな学びを提供。 学内の設備や機材に関して、日々学生が利用しやすくするために、協力企業と連携をとっている。学生の繋がりや主体性を意識できる学生のサポートを積極的に行っている。「学生主体の団体“がくちか Project” 発足・同好会発足サポート等」 <p><広報></p> <ol style="list-style-type: none"> 入学 289 名と、定員 280 名を達成することができた。 積極的な AO エントリー促進イベント開催、また LINE 等で一人一人の希望者にきめ細やかにフォローできた結果、出願数はプラスとなったが、辞退者が増えたため、入学者は昨年と同数となった。HP 内のコンテンツが増加し、広告との相乗効果により、HP への流入が大幅にアップしている (昨対 平均+130%) ゲームグラフィック専攻を 4 年制に移行したところ、年内に目標数 28 名を達成。4 年制入学者が大幅にアップ (昨対+42 名) となっている。新商品であるネット動画専攻も 10 名入学。 <p><就職・デビュー></p> <ol style="list-style-type: none"> 卒業年度生の進路確定状況を毎週ミーティングでの共有を行う。各専攻、学生の課題点を明確にしながら、より密な対応の協議を行うことができています。 引き続きデジタル化、早期化が顕著に進む企業の採用動向に、学校・学生ともに柔軟な対応で進路決定状況は順調に推移。 WebTOON 企業等との連携強化による業界説明会・作品添削会・ゼミを実施し、専門職就職・デビューに向けた視野・可能性を広げる。 <p><全体></p> <ol style="list-style-type: none"> 計画的に予算消化ができています ガールーンの導入に伴い、スタッフ間のコミュニケーションツールをガールーンに移行。ライフワークバランスも加味した働き方改革を考案中。 一部のスタッフが業務過多になっており、また属人化しているため、チームで実施していくスタイルに変更。また、情報の一元化のため、データ管理・集約方法を見直している。積極的に若手スタッフを採用、継続的な募集を行っている。 会議時の資料のデジタル化により、紙の出力量は軽減できている。しかしながら、それ以外の学内における SDGs の取り組みは、現状あまり進んでいない。 	<p><教務の課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 休学者のフォロー、学生情報の分散、チーム支援の強化、個性を大切に意識の再確認。 大手企業依頼・SDGs・製品化(商品化)・地域貢献といった、様々な目的を学生の学習成果目標に併せて企画の拡充。 イベント開催時の、企画・運営経験の増加 <p><広報の課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 競合校にはない、TECH だからできる新商品の開発 早期学生募集成功のシナリオ作り、大学との差別化 18 歳人口減少において、小学生、中学生を対象とした、若年層に向けての早期広報。2025 年度から始まる高等課程募集の準備を行う。 入学後の問題について教務としっかりと共有し、広報×教務とチームでフロー広報を行うアクションプランとスケジューリングの確定を行う。 <p><就職・デビューの課題></p> <ol style="list-style-type: none"> オンライン主流のなか、対面機会不足による業界との密な交流減少 潤沢な求人状況下、すべての要望に対応できないことによる企業からの信頼維持 仕事として作品制作に取り組む為に必要なコミュニケーション力・スケジュール管理力の強化が必要。 <p><全体></p> <ol style="list-style-type: none"> 安定経営の継続 スタッフの業務効率化、チーム支援の実施。 次世代スタッフの成長、育成

